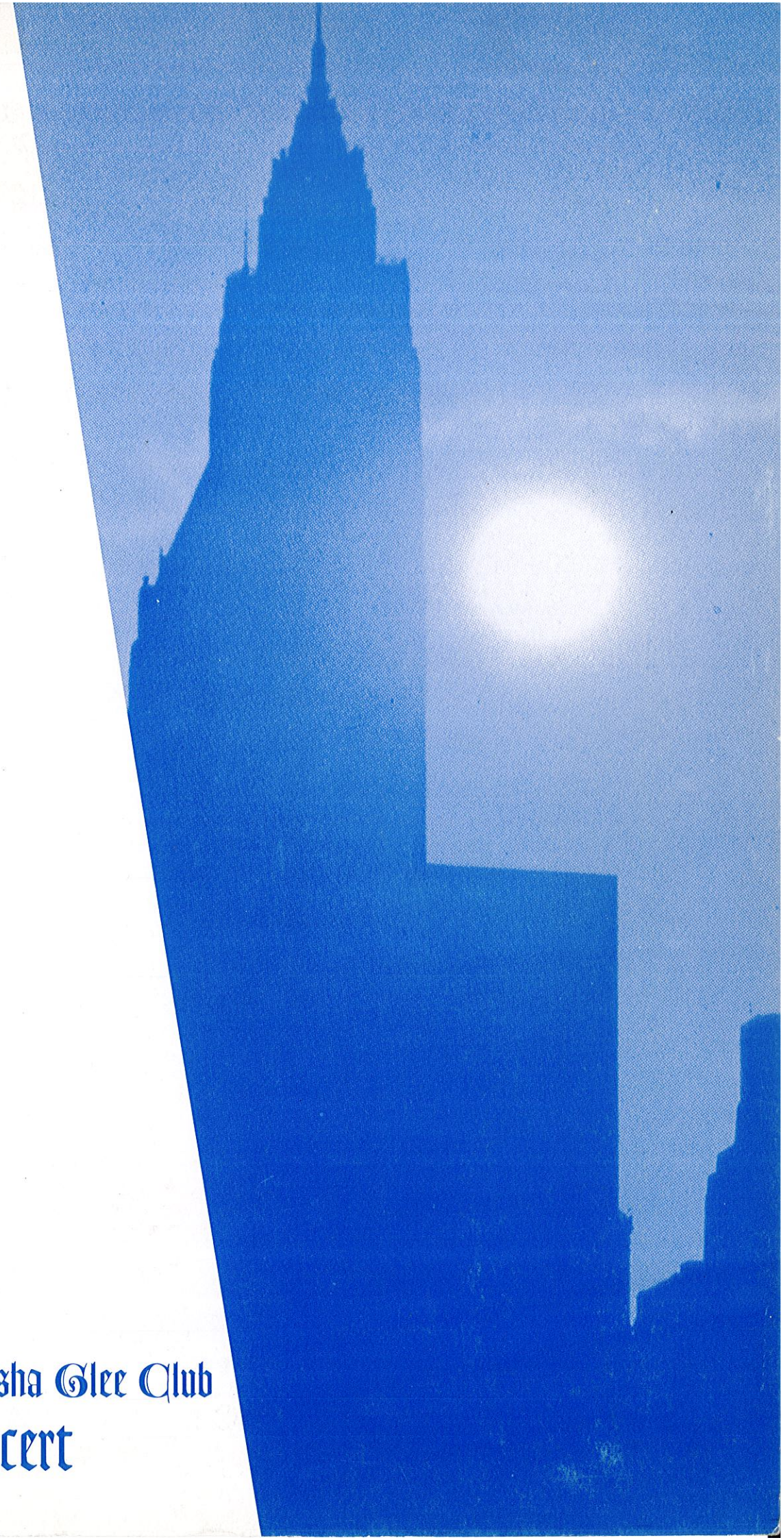


1997.12.20 於:ザ・シンフォニーホール

The 93rd Doshisha Glee Club
Annual Concert



Doshisha College Song

One purpose Doshisha thy name
Doth signify one lofty aim
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land
Dear Alma Mater sons of thine
Shall be as branches to the vine.
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide.

Still broader than our land of birth
We've learned the oneness of our Earth
Still higher than self-love we find
The love and service of mankind
Dear Alma Mater sons of thine
Would strive to live the life divina
That we may with increasing years have stood
For God, for Doshisha and Brotherhood.



第 93 回

同志社グリークラブ定期演奏会

1997年12月20日(土) ザ・シンフォニーホール



御 挨拶

本日はお忙しい中、同志社グリークラブ第93回定期演奏会にお越し下さいまして、誠にありがとうございます。

さて近年、関西の学生合同合唱団は、部員数の減少により、歴史ある合唱団が幾つも存続の危機に陥るなど、衰退の一途をたどっています。そのような環境の中、私共同志社グリークラブも例外ではありません。部員の減少はもちろんのこと、学生の減少により学校側が授業スケジュールを変え、ここ数年来の活動を見直すことを余儀なくされた一年でありました。その試みとして、同関交歓演奏会においては二十年来のホールを離れることなど、演奏会の形態についても考えてまいりました。私共が学生としてどんな演奏会をすべきか、できるのか、その可能性を模索したひとつの形が本日のプログラムとなっております。また、これらがこれからの同志社グリークラブ、ひいては合唱界全体の変革への足がかりとなれば幸いです。

団員一同、大変不安の多い中での活動ですが、愚直なまでに音楽を追求し、お客様と共に満足のいく演奏会を目標に努力してまいりました。今日が変革の足がかりになるべく更なる発展を目指して、これからも励んでいきたいと思っております。

最後になりましたが、今宵の演奏会に多大な御尽力を賜りました諸先生、諸先輩方、並びに関係各位の方々へ心より御礼申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

同志社グリークラブ幹事長 米山博哲

Greeting

同志社総長

松山 義則



本日同志社グリークラブ合唱演奏会が、音楽を愛する多くの方々のご出席を得て開催されますことを心からうれしく存じます。

同志社は1875年新島襄が山本覚馬とJ. デイヴィスの助けを受けて祈りのうちに創立された、キリスト教主義教育を基本とする歴史と伝統をもつ学園であります。同志社創立までには、幾重もの困難が先生の前にはだかりましたが、深い信仰とあふれる情熱にささえられた先生は、苦勞のすえ、それらの障害をのりこえられたのであります。わが国に一つのキリスト教主義大学を創設するという先生の願いは多くの人びとによって受け継がれ、100年を超える歳月にわたって、自治、自由、良心に生きる若き人びとの集うところとなりました。

同志社グリークラブも本年創立93周年を迎えました輝かしい伝統をもつ学生合唱団であります。グリークラブは、献身的な諸先輩の努力によって築きあげられました。団員の諸君はこのすばらしい伝統を受け継ぎ、21世紀にむけさらなる発展を期して日々研鑽を積み、皆さまのあたたかいご支援をいただいておりますことは大きなほこりと存じます。

なお、同志社は来年アメリカへ演奏旅行に出かけます。アメリカでの交歓演奏を通じて国際交流を深め、輝かしい成果をあげることを期待しております。

今宵は、団員の心を込めた演奏に心耳を傾けていただき、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。

同志社グリークラブ顧問

澁谷 昭彦



私は、間もなく定期演奏会のメッセージを書くことから解放される。来年度末をもって定年退職、同志社を去ることになるからである。そこで、これまで定期演奏会の度ごとに、どのようなことを現役諸君に訴えてきたのかを思い起こすため、フロッピーに保存されている過去のメッセージを読み返してみた。

そこで述べていることは、表現の差こそあれ、同志社という学園にあるコーラスであることを忘れないこと、学生らしさを失わないこと、学生らしい演奏をすること、学内、同志社関係の行事、演奏依頼を重視すること、同志社だからできる曲を選ぶこと、いわゆる宗教曲、教会音楽、キリスト教音楽を中心としたグリークラブの歴史と伝統を学び、それを守り、さらに飛躍するための絶好の機会であることを自覚、認識すること、等々であるが、よくも懲りずに響き続けたと思う。

これらのメッセージがどれほど学生諸君に伝わったか、また、どれほど受け入れられたかは分からない。しかし、上記のことを意識しないまま、漫然と定期演奏会に臨むとすれば、この定期演奏会も普通の演奏会になり、「同志社グリークラブ」としての意義を失うことになる。定期演奏会だからこそ、今後とも執拗に、同じことを繰り返して訴え続けたいと考えている。

現役諸君の御健闘を祈る。

同志社グリークラブOB会理事長

松村 時男



大学合唱団の危機が囁かれているこの頃である。単にどこの大学にでも起きている現象と、簡単に切って捨ててしまわないで、その原因を自ら追求して解決する努力をしてもらいたい。

原因の一つとして、学生の自主性の欠如が大きくとりあげられている。他人への依存性の増大、そしてその行為を当然と受け止める安易性なども挙げられている。全国屈指の私立大学である同志社大学に入学する機会に恵まれ、なお且つ100年近くの伝統を持つグリークラブで合唱活動をつづける諸君にぜひ再認識していただきたい。

松山総長は、自治、自由、良心に生きる若き人々の集まる学舎と同志社を位置づけられる。今のグリークラブに当てはめて考えてもらいたい。

話は異なるが、11月に来日した、プロゴルフ界に彗星のように現れたタイガーウッズの言葉を紹介してみると「スポーツで大成しようと思うならば、まずそのスポーツを好きでなければならない。上達するにはハードな練習が必要であるが、その練習も楽しんでやる心を持たねばならない。この事は、スポーツのみならず、すべてに共通する。」関西吹奏楽連盟理事長の松平正守先生の言葉にも「本来音楽は競い合うものではなく、共に楽しむために生まれたものであるから、技術の研鑽を積みだけでは余りにも寂しい」とある。グリークラブの多くの先輩が幾度も提案している「楽しい練習」を実行してみる事を勧める。何か変わったそして楽しいコーラスに出会えるかもしれない。

Program

Doshisha College Song

作詩/W.M.Vories

作曲/Carl Wilhelm

I. 男声合唱組曲『在りし日の歌』

作詩/中原中也

作曲/多田武彦

米子
早春の風
閑寂
骨
また来ん春

指揮 小林香太

II. "The sound of hope"

～クリスマス・スピリチュアル～

Ain' - a That Good News!

GO TELL IT

ON THE MOUNTAIN

Mary's boy child Jesus Christ

Mary Had A Baby

Hail Mary

Ev'ry Time

I Feel The Spirit

指揮 広瀬康夫

III. 男声合唱組曲 水のいのち

作詩/高野喜久雄

作曲/高田三郎

1. 雨
2. 水たまり
3. 川
4. 海
5. 海よ

指揮 伊東恵司 ピアノ 西川秀人

IV. オペラ "Porgy & Bess" より

原作/D. B. Heyward

作詩/I. Gershwin

作曲/G. Gershwin

編曲/福永陽一郎

I. Summertime

II. A woman is

A sometime Thing

III. My Man's Gone Now

IV. I Got Plenty O'Nuttin

V. Bess, You is My Woman Now

VI. Oh, I Can't Sit Down

VII. It Ain't Necessarily So

VIII. There's A Boat

Dat's Leavin Soon

For New York

IX. Oh, Bess,

Oh, Where's My Bess

X. Oh, Lawd,

I'm On My Way

指揮 小林香太

ピアノ 長田育忠

ソプラノ 雑賀美可

バトリン 田中由也

Profile



指揮者
伊東 恵司

1990年、同志社大学を卒業。
在学中はポストモダン芸術論を専攻し、音楽論、映画論、写真論等に造詣を深める。また、同志社グリークラブ第58代の学生指揮者として、「向うところ敵なし・・・」とさえ言われた近年の黄金期を築くとともに、故福永陽一郎より絶大な信頼を受け、ヨーロッパ演奏旅行、東西四連、同関交歓演奏会、定期演奏会等での多数の名演を残す。
卒業後、90年より「淀川混声合唱団」の指揮者として活躍。93年には合唱団「なにわコリアーズ」を創設。演奏会を始めとし、関西合唱コンクール、宝塚国際室内合唱コンクール等でも活躍中。(本年度の関西合唱コンクールでは「金賞」を受賞し注目を浴びる)
また、本年は「京響第九合唱団」の技術スタッフも勤めている。
母校に勤務する傍ら後輩の指導にもあたり、同志社グリークラブのフェアウェルコンサート、国内演奏旅行等でも指揮。93年にはアメリカ演奏旅行にも同行し、ボストン・シンフォニー・ホールの演奏会で「Missa O magnum mysterium」を指揮し好評を得る。鋭い感性、情感豊かな指揮ぶり、分かりやすい指導は学生にも人気が高く、「良きアドバイザー」として同志社グリークラブの活動を支えている。今回、95年(90回定演)に引き続き定期演奏会再登場となった。
同志社大学経理課勤務。

日頃、学生のそばから活動を見守ってまいりましたが、今回、卒業後2度目の定期演奏会の舞台に立つことになりました。
近年、合唱を取り巻く環境は大きく様変わりし、より多様な形態の合唱の在り方、音楽との接し方、幅広いジャンルが目の前に広がってきているように思います。その一方で大型の学生合唱の活動は、多校地制度や大学そのものの構造改革などもあって、「時間を共有すること自体の困難さ」に直面しているような気がいたします。この大きな過渡期にあって「同志社グリークラブ」もまた、諸先輩から受け継がれてきた「歌に対する思い」を大切にしながらも、自分たちの活動自体を見詰め直さねばならない時期にきていると言えるでしょう。ともすればノスタルジックに「守るもの」として捉えがちな「伝統」を、常に今日的な課題と環境の中で「構築していくもの」としてポジティブに捉え直していくことこそが、伝統ある合唱団に課せられた使命であるようにも思います。
「溢れ出るうたごころ(時に、はみ出す)」という合唱団の根源的なエネルギーを、「硬直的」ではないやり方で、合唱界や音楽界を広く見渡す視線の中で、直面する課題を一つ一つ克服しながら素直に発揮して欲しい……と日々考えております。
今年は、名曲「水のいのち」を取り上げてみました。
「同志社グリークラブ」らしい、感性のきらめきを感じられるような演奏になれば願っています。



客演指揮者
広瀬 康夫

神戸に生まれる。関西学院高等部を経て関西学院大学経済学部を卒業。関西学院グリークラブにおいて学生指揮者を務める。1987年より関西学院に勤務し、関西学院グリークラブ他の指導にあたる。1987年神戸芸術協会公演「フィガロの結婚」にバルトロ役で出演。1989年関西学院グリークラブ欧州演奏旅行に指揮者として、1992年米国演奏旅行、1997年欧州演奏旅行に指揮者及びソリストとして同行。1981年男声合唱団コール・セコンデを結成、リサイタルを開くとともに全日本合唱コンクールにおいて6度の全国大会出場を果たす。北村協一氏に指揮法を、大久保昭男氏、井上和世氏に声楽を師事。現在、関西学院グリークラブ指揮者、コール・セコンデ常任指揮者、新月会指揮者、平成指揮者十人の会同人。

黒人霊歌なんてものは日本人が軽々しく歌っちゃダメなんだ、この歌がどんな状況で歌われ、伝えられてきたのかということに思いを馳せれば、とても我々が本当の共感を持って歌えるはずがない……。こんなことを考えていた時期がありました。では今は？もはや奴隷時代の黒人の歌という次元を超えて、普遍的な音楽として世界に認知されたこれらの歌に関わることが、私たちに「歌」というもの、「歌う」ということに対する意識を高めてくれるのではないかと考えています。歌が無くとも我々は生きていきますが彼らにとってはそうではなかった。うわべは御主人様に服従しながらも、自分たちのアイデンティティを密かに、確実に、伝承するための「祈り」であったのです。彼らの体験は私たちの想像を絶するでしょう、しかし残された音楽から読みとれるもの、それをどう表現していくか、この音楽を今度は私たちがどう伝えていくのか、ある種の使命のようなものを感じながら、今同志社グリークラブの皆さんと一緒に関わることによって喜びを感じています。

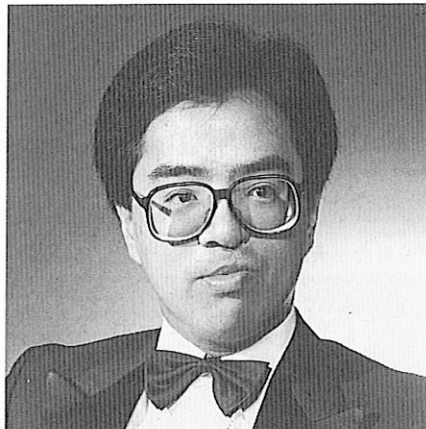
Profile



ピアノ
西川 秀人

5歳よりピアノを始め故長岡敏夫氏、伊達純氏に師事。1976年東京芸術大学音楽学部卒業、同大学修士課程修了。77年イタリアに留学。国立ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴィンツェンツォ・ヴィターレ氏、シルヴェストリ氏に師事。同音楽院卒業。第7回セニガリア国際ピアノコンクールで第一位入賞。その後、イタリア各地でリサイタルを開催。79年秋帰国。これまでに、数多くのリサイタルのほかNHK-FMの録音、又合唱団との共演など多方面で演奏活動を行っている。
現在東京芸術大学、愛知県立芸術大学各講師。

今回初めて同志社グリークラブと共演させていただきます。栄光ある伝統を誇る同志社グリークラブと共演する事は、私にとって勿論幸せであると同時に気を引き締めて今回の演奏会に臨まなければと、改めて感じています。
「水のいのち」は、以前から一度演奏してみたいと思っていた曲でしたが、何かこの名曲を今まで一度も演奏する機会がなく、この度漸く念願かなって大変嬉しく思っています。
なにしろ初めての事ばかりで緊張していますが、それだけに新鮮で感動ある演奏が皆さんと御一緒にできればと願っています。



ピアノ
長田 育忠

同志社大学法学部政治学科卒業。
ピアノを山下啓子、遠山つや、松野景一、山崎孝、ジョージ・ナードル、H・ビューグ＝ロジェの諸氏に師事。歌曲伴奏法をルドルフ・ヤンセン氏に師事。またオルガンをジャン・メルオー神父に師事。主に声楽・合唱音楽等の伴奏者として演奏活動を続けるほか、宗教音楽のオルガニストとしても数多くの演奏会に出演するなど幅広く活躍。
1986年2月、ボストン交響楽団京都公演にスタッフとして参加。
1986年6月、90年1月、91年にリサイタルを開催。
社団法人全日本ピアノ指導者協会正会員。

同志社グリークラブでこれまでに、福永陽一郎氏や井上道義氏によって演奏されてきた男声合唱版「ボギーとベス」を、今年は学生指揮者の小林香太君が振ることになった。私自身とても好きな曲で、過去には何度か自分で編曲をしている合唱団で演奏したりもしているのだが、同志社グリークラブとは今回が初めてである。ただ、一緒に演奏できることは大変楽しみであるはずなのに、練習に参加するまでのしばらくは実のところ不安の方が多かった。
ここ数年メンバーの数が減少傾向にある中で、オペラのコーラスにはなくてはならない分厚いハーモニーが作り出せるのか、あまり得意ではない英語の発音を克服できるのか、そして何より、この曲の持つジャズの雰囲気などをどれだけ表現できるのか等々、私は、自分自身のことは期に上げてひとりあれこれ思い悩んでいたのだ。だがその後、彼らと何回かの練習を重ねるうちに、小林君の熱意とメンバー諸君の努力とが、次第に私の不安を取り除いていってくれたのほうれしかった。今になってみれば、560ページにも及ぶ電話帳のようなヴォーカルスコアを前に、指揮者や独唱者とあれこれ演奏のプランを議論しながらの練習はとても楽しいものだった。
幸いにも今回は、関西音楽界で大活躍の雑賀美可、田中由也両氏のご協力下さり、心強い限りである。オペラの舞台経験の豊富な方々との共演は、メンバーにとっても、また私自身にもきつといい刺激になることだろう。
今年も、同志社グリークラブとは多くのステージを共にすることができた。心から感謝したいと思う。この思い出深い一年を締めくくるにふさわしい演奏ができればと願っている。



ソプラノ
雑賀 美可

奈良文化女子短期大学音楽学科声楽専攻卒業。
平成二年には、イタリア声楽コンクール金賞、新人音楽コンクール声楽部門第一位、摂津音楽祭「総合一位金賞」「市民審査賞」、又、平成七年には、韓国・ソウルで行われた「アジア太平洋障害者の十年」テーマソングコンテストで第一位グランプリを受賞。関西二期会オペラスタジオを、最年少で入所し、関西二期会オペラスタジオ修了後翌年、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」のゲルトルト役でデビュー。その後、「椿姫」フロラ、「愛の妙案」ジャンネッタ、「魔笛」ターメ1、「カヴァレリアスチカーナ」サントウツァ、「ドンジョバンニ」エルヴィラ、等、リリコ、ドラマティック役のまで幅広い声域と豊かな音楽性を生かして活躍している。1996年には「カルメン」タイトルロール、1997年には「ワルキューレ」ブリュンヒルデを好演し好評を博す。特に「ワルキューレ」では、新聞評、音楽雑誌等で絶賛された。各種演奏会でも、サロンコンサート、スクールコンサートをはじめ、ベートーヴェン第九、ミサ曲のソロ、ニューイヤーコンサートなどで、オーケストラとの協演も多い。現在、関西二期会正会員、日本演奏家連盟会員。

本日は定期演奏会のご開催、おめでとうございます。
古部 京都で育まれた伝統ある同志社グリークラブとして益々のご成長をされている皆様と一緒にステージに立ることを心から嬉しく思っています。
男声合唱のイメージと言いますと、迫力のある声量、そして何といっても甘さだと思います。女声合唱や混声合唱にない何ともいえない雰囲気が高校の時代から大好きでした。最後のステージで「ボギーとベス」を歌わせて頂くわけですが、Summertimeはソロとしていろいろなところで歌ってきましたが、今回、若くて元気なグリーメンが私を取り囲んで歌ってくださるなんて、今からワクワクドキドキしています。きっと私の歌がいつもより弾んで聞こえるでしょう。来年はガーシュウィン生誕100年、それに先がけ演奏できることも光栄に思っています。これからは豊かなハーモニーを極められる事を期待しますと共に同志社グリークラブの御発展と本日の演奏会がご盛会でありますようお祈りいたします。

Profile



バリトン

田中由也

兵庫県西脇市出身大阪音楽大学卒、同大学院修了。
本格的なオペラデビューは朝比奈隆指揮の「ドン・カルロ」の主役ロドリゴの大抜擢である。以後数々のオペラで主役級を演じている。特に「ファルスタッフ」のファルスタッフ、「フィガロの結婚」の伯爵、「ドン・ジョヴァンニ」のドン・ジョヴァンニ、「コシファン・トゥッテ」のアルフォンゾ、「夕鶴」の惚惚、「よさこい節」の純信、「トスカ」のスカルピアなどは、歌唱、演技共に高い評価を受けている。
なお来年9月にオープンするびわこホール柿落とし公演「こうもり」若杉弘指揮、鈴木敬介演出にフランク役で出演が決まっている。
コンサートの分野でもベートーヴェンの「第9」「荘厳ミサ」モーツァルトの「レクイエム」「戴冠ミサ」フォーレの「レクイエム」など数多くのソリストを務めている。
平成元年度文化庁国内研修員に選ばれる。関西を代表するバリトン歌手の一人である。現在大阪音楽大学講師、関西歌劇団正団員、桜井女子音楽科講師、混声合唱団カメリア指揮者、女声合唱団四季の会指揮者、西山ハニーコール指揮者、大阪フロイデ合唱団ヴォイストレーナー。油井成行氏に師事。

皆様 こんにちは Porgy 役の田中由也です。
3年前に Porgy をはじめて歌う機会がありまして、今回2回目の Porgy ですがこの男のもつ苦悩 悲哀 そしてその中に蓄積される愛情をどう表現するか…私も苦悩しております。



ヴォイストレーナー

大久保 昭 男

1953年、東京芸術大学声楽科卒業。矢田部勲吉氏に師事。1953年5月、NHK オーディションに合格。数多くの放送、演奏会に出演。近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」。山田耕筰作曲、本人指揮のオペラ「黒船」(初演)ドヴォルジャーク作曲「ルサルカ」(初演)などにも出演。1959年には、ドイツ・リートおよび日本歌曲による第1回リサイタルを開く。その後、関西学院グリー、同志社グリー、慶應ワグネル、立教大学グリー、明治大学グリー、法政大学アカデミー合唱団をはじめとする大学のトップクラスの合唱団のヴォイストレーナーとして、関東、関西で幅広く活躍、現在に至る。元、東京芸術大学講師。現在、昭和音楽大学短期大学部教授。

美しい京都の秋の紅葉が終ると、また定期演奏会が大きくなって来ます。今年は第93回を迎えられ、心よりお祝いを申し上げます。
私の毎回の練習には、グリーメン全てが非常に力強い魂をもって向かって来てくれることに私は指導者としてのよろこびを感じます。
実技の指導で、一番恐ろしいことは、「笛吹けど踊らず」の時です。その点、同志社グリーは時として踊り過ぎるくらい全集中で受けとめてくれます。このところ、グリーの演奏は、その様な積極的な姿勢が大きくプラスして、いい声で歌ってくれている様です。
今宵の演奏も、お集まりの皆さまのお耳に、美しく響けばと望んでやみません。



第66代学生指揮者

小林 香 太

1976年奈良県生まれ、幼少より親しんだ教会音楽によって自然な音楽適性を身につける。高校時代に本格的に声楽に自覚め、音楽科教師で関西二期会の有本明生氏に師事する。その頃聴いた「東西四連」のレベルの高さに驚き、中でも燃え尽きるような同志社グリークラブの演奏に憧れて入学、入部を決意。入部後はその圧倒的な才能と統率力で一躍指揮者候補となり、1996年6月には学生副指揮者ながらアメリカの名門YALE GLEE CLUBとのジョイントコンサートで「多田武彦名曲集」および合同ステージのヘンデル「メサイア」を指揮し鮮烈なデビューを飾り、YALE GLEE CLUBの常任指揮者 David Connell 氏より絶大な信頼を受ける。1997年1月に第66代学生指揮者に就任。同年7月の第16回同窓交歓演奏会ではグノーのオルフェオン・ミサ、8月の高松・岡山への夏期演奏旅行では四連で演奏したパーバー・コーブランドらの作品を指揮するなど、確実にキャリアを積んでいる。また11月3日に行われた第24回関西六大学合唱演奏会では多田武彦「在りし日の歌」を指揮、各方面から好評を博している。「大胆かつ繊細に」をモットーに部員一人一人の感性を大切にしながらも徹底したアンサンブルを追求する姿勢から部員の信頼も厚い。冷静ながらも常に熱き思いを秘めた彼のタクトは、これまでの彼の音楽生活の集大成を余すところなく発揮してくれるであろう。奈良県立北大和高校出身。第5回奈良県高等学校独唱独奏コンクール声楽部門第2位入賞。

同志社グリークラブがどうしてこれほど長い間、多くの聴衆と共に音楽を分かち合うことができたのか、私は学生指揮者という職責を通して幾度となく考えさせられ、それを喜びと共に何度も実感してきた。東西四連では本山秀毅先生と共にパーバー、コーブランド、トプソンといった新しいアメリカ音楽を共有し、関西六連・定演では対照的に多田武彦、高田三郎を歌い、また同グリーの源泉でもある黒人霊歌、ガーシュインに至るまでのいわゆる男声合唱の「王道」を歌う。今年一年を通じてハーモニーにしろアンサンブルにしろ、常に男声合唱にしかできない「何か」こだわって選んできたが、今こうして振り返ってみるとずいぶんと欲張ってきたものだと思う。とても一般の合唱団には真似のできない楽曲というが、逆に言えば学生合唱団としてのメリット(豊富な練習量等々)があつてのことだと言えるかもしれない。

そうしたことをあえて言うならば、同志社グリークラブがあくまで自分の意志によっていかようにも使える時間を与えられ、ふとしたきっかけから音楽という絆で結ばれた仲間達の集まりである、ということであろう。グリーに出会うまではそれほど音楽に縁のなかった者が多いせいか、多くの先生方や先輩によって男声合唱の魅力が教わると、今度は何と自分達の力で音楽の素晴らしさを表現し、自ら実感したくなる気持ちが人一倍強くなる。芸術の分野ではごく当たり前のことではあるが、毎年メンバーが入れ替わるとしての学生合唱団としての当然の宿命を背負いながらも、ただひたすらそれを繰り返してきたことがまさに同志社グリークラブの歴史であると言える。これまで我々に受け継がれてきた、あるいは新しい時代に向かって今後とも受け継がれていくべきものがあるとするならば、ジャズや曲の軽易にかかわらず、ただ音楽に対して常に純粋でありたいとする気持ちであると思う。本日の演奏会は学生指揮者によるステージの他、現在関西でも最も光り輝いている男声合唱団の常任指揮者としてお二人をお招きして演奏する。広瀬康夫先生、伊東恵司先輩共にアマチュアながらも「自分達の音楽は常にこうでありたい」というエネルギーに満ち溢れたお二人である。「在りし日」から「ボギベス」まで、歌う者一人一人の思いを今宵お聴きいただく皆様の心にシンフォニーホールの空間一杯に広がる美しいハーモニーとしてお届けすることができるならば、学生指揮者としてまたグリーメンとしてこれ以上の幸福はない。

Naniwa Choraliers '98

in Takarazuka



なにわコレリアーズ

指揮 伊東恵司

Old Russian Songs

新しいスタンダードを求めて ~ Sandström 合唱曲 他

男声合唱曲集「壁さえた」 新実徳英作曲/谷川雁作詞

宝塚ベガ・ホール

1998.3.29(Sun)

Start 15:00

Fee ¥1,000

お問い合わせ

遠藤 0727-51-9713 ● 矢野 06-941-1639

Naniwa Choraliers 4th Concert

"なにわの華"大募集!!

- 入団資格
男性に限る。歌が好きである。
- 練習/毎月
第2,4土曜日 18:00~21:00
- 会場
淀川善隣館(地下鉄天六駅徒歩15分)
- 会費等
練習参加1回につき¥1,000円
(楽譜代・呑み代別途)

本年度関西合唱コンクール金賞

淀川混声合唱団では、
団員を募集しています。

一緒に



歌おっ!!

- 練習/毎月
第2,4,5日曜 13:00~17:00
第3土曜 18:00~21:00

- 練習場
日曜 ミード社会館(阪急十三駅)
土曜 淀川善隣館(地下鉄天六駅)

第10回記念演奏会

1998年7月18日(土)

いずみホール

「唱歌の四季」(三善晃 編曲)
【心の響き~祈りの風景】
【よどこん うたの祭典】

客演指揮 本山秀毅
指揮 伊東恵司
伴奏 長田育忠

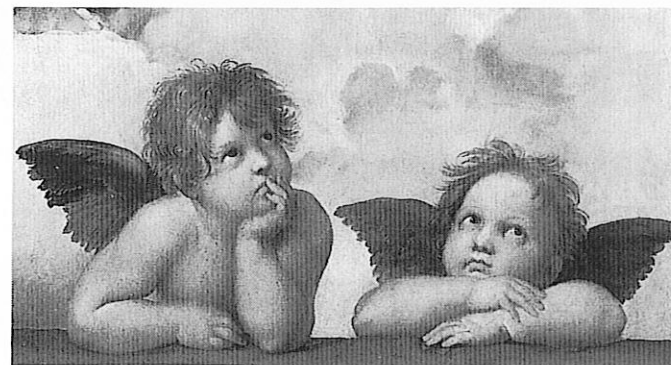
●向井 06-921-8200 ●お問い合わせはこちらまで ●遠藤 0727-51-9713 ●

第33回 全同志社メサイア演奏会

1997.12.24 (水) 京都コンサートホール大ホール

開場 17:00 開演 18:00 入場料 1,500円

(当日座席券交換)



指揮 黒岩英臣

Sop. 松下悦子 Ten. 金谷良三
Alt. 児玉祐子 Bas. 井原秀人

主催：全同志社メサイア演奏会実行委員会

前売り：同大・立命大・京大各生協、JEUGIA、
コンサートホールPGで発売中

男声合唱組曲

『在りし日の歌』

作詩：中原中也

作曲：多田武彦

指揮：小林香太

— 天使と子供 —

中也生前に親交のあった音楽家・吉田秀和は「また来ん春」の中で悼まれている愛児文也と、かつて動物園で自分と一緒に白熊の檻の前に立って、飽きもせずいつまでも眺め続けていた中也自身の姿とが、どうしても二重に映し出されてしまう、として次のような疑問をさしむけている。

私は、これを単なる記憶の連想としていっているのではないのだ。本当に、私には不思議な気がする、いったいあの時死んだのは、彼の子供だけだったのか？いや、あの時、熊を見ていたのは子供でなくて中原だったのだろうか？（「中原中也のこと」）

こう思うのも無理はない。作品を題材に考えてみると、たとえば、第一連では、平俗な七五調のややおどけた節回しの中で、我が子を失って季節の巡りから取り残された〈私〉の悲しみ、辛さが歌われる。しかし、第二連、第三連の回想の場面に移ると、この〈私〉は、〈あの子→おまえ〉に完全に同一化して、その影のなかに見えなくなってしまう。いや〈おまえ〉の愛らしい像が七五の音数律の上に一杯に広がるためのみ、〈私〉はその影たりえていた方が良いかも知れない。〈象を見せても猫といひ〉の、〈見せても〉のリフレインが〈見ても〉でないところに注意すべきだろう。むしろそこに調べを七音にそえる無意識的な効果への期待も働いているであろうが、同時に、みずからあらわさないで〈おまえ〉に象や鳥を〈見せる〉影の、言い換えれば、黒子としても〈私〉の位置があるはずである。その〈私〉の位置は、遥かな他界へ去ってしまった〈おまえ〉に対する切ないほどの愛惜がとらせているともいえるが、作品の構成の上ではそのことによるのみ、〈おまえ〉は像として鮮明な姿で生き返ってくるからだ。しかし、そのような〈おまえ〉と〈私〉の、言い換えれば像と影との一体化の中では、たとえば、鹿の角に惹かれて黙りこくって眺めていたのは、おそらく中也自身でもあろう、という印象を強く残すのである。従って、最終連の〈此の世の光のただ中に／立って眺めていたっけが…〉の、まぶしいほど偏満する現世的な光の粒子の中に立ちつくしている〈おまえ〉とは、さて、〈あの子〉のことなのか、それとも、わたしたちにはこれも死者の一人にはかならず、あの子の父の〈中也〉のことなのか、定かならず…という感想をもたらすことになるといえる。そういう意味で、吉田秀和が、〈一体あの時死んだのは、彼の子供だけだったのか？〉と問い、また、詩の中では〈彼と彼の子供との区別がつきにくい〉と洩らさずにはおれない事情には、作品の構造の上からいって十分に根拠があるように思われる。

◆ 詩人・中原中也の略年譜 ◆



- 明治40年 山口県湯田温泉に生を受ける
- 大正 9年 県立山口中学校に入学
- 大正12年 立命館中学に転校し、京都に移り住む
- 大正14年 長谷川泰子と共に東京に転居。小林秀雄と出会う。
- 昭和 4年 河上徹太郎、大岡昇平らと共に「白痴群」を創刊。多数の作品を発表
- 昭和 8年 孝子と結婚。「紀元」「四季」等の同人誌に「帰郷」「少年時」等を発表。「ランボオ詩集」を翻訳、刊行。
- 昭和 9年 長男文也誕生。詩集「山羊の歌」刊行。
- 昭和11年 「文学界」「四季」等に「一つのメルヘン」等、多数の詩を発表。「ランボオ詩抄」を翻訳、刊行。長男文也病疫。
- 昭和12年 精神衰弱になり千葉市の療養所に入院。後、静養のため鎌倉に転居。「文学界」に「冬の鳴門峡」「春日狂想」等を発表。詩集「在りし日の歌」を修了。現行を小林秀雄に託す。10月22日30才の若さで永眠。
- 昭和13年 詩集「在りし日の歌」刊行。

— 米子と〈私〉 —

果たして、米子とは何者なのだろう。また、〈私〉にとって米子は何なのだろうか。

詩中では、その〈米子〉と呼ばれる人物は〈ポブラのやうに、歩道に沿って立って居た〉とある。それはその通りであろうが、その前に〈肺病やみで腓は細かった〉のは、本当にそうであるかどうか判断はできない。〈腓は細かった〉のがおそらく〈肺病やみ〉のためによるのは、想像であるからだ。しかし〈私〉の主観的な立場からは〈肺病やみ〉に違はなく、その正誤はたいした意味を成さない。そう考えるとやはり、その〈処女〉が二十八才であるのも、米子という名前であるのも、〈私〉の想像の中の事としてのみ存在していたのだ、とは考えられまいだろうか。

詩では米子の様子を淡々と語りながらも、しかし確実に想像の占める割合を増し、〈私〉は米子に少なからず情を移し始める。そしてついには現実との区別がつかなくなりかけるが、やはり寸前でふと我に返るのだ。

〈お嫁に行けば〉、肺病が治ると思いがながらもくせかしら、云はずじまいであった〉のは、理性的ような客観的に見る〈私〉にとってみれば、当然であったと言えよう。そしてこの当然とも言える事に対するどうにもならない哀しみが、にじみ出ている。

○ 米子

二十八才のその処女は、肺病やみで、腓は細かった。ポブラのやうに、人も通らぬ歩道に沿って、立ってゐた。

処女の名前は、米子と云った。夏には、顔が、汚れてみえたが、冬の秋には、きれいであった。かぼそい声をしてをつた。

二十八才のその処女は、お嫁に行けば、その病氣は癒るかに思はれた。と、さう思ひながら、私はたびたび処女をみた：

しかし一度も、さうと口には出さなかつた。別に、云ひ出しにくいからといふのでもない。云つて却つて、落膽させてはと、思つたからでもない、なぜかしら、云はずじまいであつたのだ。

二十八才のその処女は、歩道に沿って立ってゐた。雨あがりの午後、ポブラのやうに、かぼそい声をもう一度、聞いてみたいと思ふのだ：

○ 早春の風

けふ一日また金の風
大きい風には銀の鈴
けふ一日また金の風

女王の冠さながらに
卓の前には腰を掛け
かびろき窓にむかひます

外吹く風は金の風
大きい風には銀の鈴
けふ一日また金の風

枯草の音のかなしくて
煙は空に身をすさび
日影たのしく身を幄ぶ

鳶色の土かほるれば
物干竿は空に往き
登る坂道なごめども
青き女の頸かと
岡に梢のとげとげし
今日一日また金の風：

○ 閑寂

なんにも訪ふことのない、私のこころは閑寂だ。

それは日曜日の渡り廊下、みんなは野原へいつちやうつた。

板は冷たい光沢をもち、小鳥は庭で啼いてゐる。

締めつた足らない水道の、蛇口の滴は、つと光り！

土は蔷薇色、空には雲雀
空はきれいな四月です。

なんにも訪ふことのない、私の心は閑寂だ。

○ 骨

ホラホラ、これが僕の骨だ、生きてゐた時の苦勞にみちたあのけがららしい肉を破つて、しらじらと雨に洗はれヌックと出た、骨の尖。

それは光沢もない
ただいたづらにしらじらと、
雨を吸収する、
風に吹かれる、
幾分空を反映する。

生きてゐた時に、
これが食堂の雑踏の中に、
坐つてゐたこともある、
みつばのおしたしを食つたこともある、
と思へばなんとも可らしい。

ホラホラ、これが僕の骨
見てゐるのは僕？
可笑しなことだ。
靈魂はあとに残つて
また骨の処にやつて来て、
見てゐるのかしら？

故郷の小川のへりに、
半ばは枯れた草に立って、
見てゐるのは、僕？
恰度立札ほどの高さ、
骨はしらじらとどんがらつてゐる。

○ また来ん春

また来ん春と人は云ふ
しかし私は辛いのだ
春が来たつて何なる
あの子が返つて来るぢない

おもへば今年の五月には
おまへを抱いて動物園
象を見ても猫といひ
鳥を見ても猫だつた

最後にみせた鹿だけは
角によつぽど惹かれてか
何とも云はず 眺めてた

ほんにおまへもあの時は
此の世の光のただ中に
立って眺めてゐたっけが：

“The sound of hope”

— クリスマス・スピリチュアル —

指揮：広瀬康夫

The sound of hope — 希望の音楽。

私達現代人が希望という言葉を用いるのはどんな時だろう。自分の将来について考えた時？、また、自分の子どもに未来を託すとき？いやいや、それらの場合のたいていは希望という言葉よりもむしろ、志望や願望などといった言葉の方がしっくりくるだろう。希望という言葉にはどこか個人の意志を越えた、どうしようもない、言いようのない“祈り”のようなニュアンスがある。力強さがある。

ここでは、奴隷という絶望の淵で黒人たちが、いかな希望を音楽に託していたのか、その歴史的背景と共に述べてみたい。

●黒人の歴史的背景

イギリス領北アメリカのヴァージニア植民地（ジェームスタウン）に最初の黒人が到着したのは、1619年のことであった。その後、1660年頃から南部植民地を中心に、白人が主人であり、これらアフリカ系住民が奴隷であるという関係が定着したのであった。開拓のために必要な労働力の確保とこの外的条件のほかに、イギリス社会特有の人種的ならびに文化的偏見—たとえば白を純潔さの象徴であると見なす一方、黒は邪悪であるとする連想—が働いていたことも、奴隷制を生んだ主要な理由であった。黒人奴隷は武器の携帯を禁止され、集会を制限され、規則を破った場合などの罰則に関して白人の年季奉公人との間に格差が生じ、それが固定化していった。ここに、奴隷制の起源を見るものである。奴隷となった黒人は動産と見なされ、その境遇は悲惨であった。奴隷と彼（もしくは彼女）を所有していた主人の人権が違っていたということが、アメリカ南部に発達した奴隷制を世界の他の地域において見られたものと異なる、特徴あるものにしたのであった。

すべての白人が奴隷所有者であったわけではない。奴隷制の最盛期であった19世紀中期においてさえ、奴隷を所有していた白人家族数は全家族の4分の1を越えることは無かった。言い換えれば、白人の大多数は独立の自営者であったのである。さらに、奴隷ではない自由身分の黒人もかなりの数いたのであった。

南部の黒人の大部分（約350万人）は奴隷であった。この様な状況から、奴隷には黒人がならなければならない、黒人はすべて奴隷でなければならないという観念が生まれたとしても、理解に難くない。しかし、この様な人種観は、実際には、二つの重大な問題を内包していたのである。第一の問題は、自由身分の黒人はアブノーマルな、危険な存在として見られたことである。第二は、白人＝主人・黒人＝奴隷という人種関係に批判的な勢力が現れるとき、南部社会は極端に警戒するようになったことである。特に後者について言えば、1830年以後、アポリショニスト（奴隷制即時廃止論者）の台頭に際して、過剰に思われる程の反応が南部白人の間に見られるようになり、この時以後奴隷制の擁護が南部政治の課題となっていった。

さて、彼らは自らの置かれた境遇にどの様に対応していったのであろうか。彼らは、激しい労働や、鞭打ちなどの厳しい罰則や、気まぐれな主人による非人間的仕打ちに対して、巧みに適応していったのである。すなわち、日常生活のなかでの苦しみに耐える一方、サボタージュや反乱を通しての抵抗、あるいは音楽や信仰に託しての解放への願望表現といった手段によって、彼らは自らの尊厳と人間性を守ることに成功したのであった。



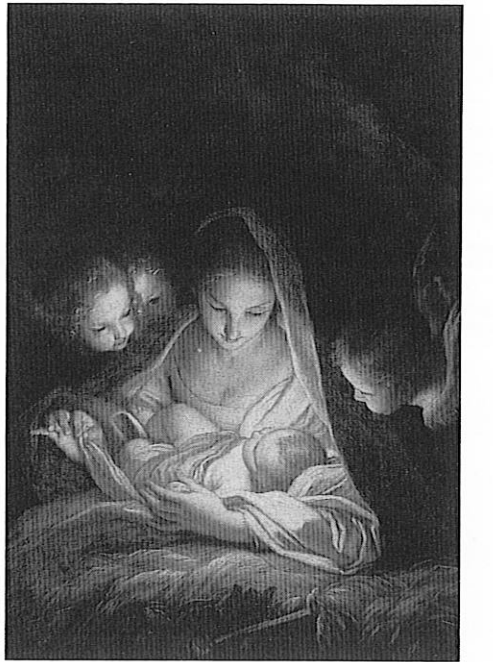
●奴隷制と宗教

南部では奴隷制を正当化するのに聖書の言葉が利用された。まずはカインとアベルの物語。弟アベルを殺したカインは追放されるが、神はカインが殺人者として他のものに殺されないように印を付けた。（創世記4・15）この印が黒人の黒い皮膚になったと考えられ、黒人は神から呪われた存在であるという神話が生まれた。次にノアは、ハムの子カナンに呪いをかける。「カナンは呪われよ。彼は僕の僕になって、その兄弟達に仕える。」（創世記9・25）このことから、奴隷制が神の言葉から生まれた制度であることと、呪われたハムが黒い皮膚を与えられたカインの子孫と結婚、つまり人種の混交によって自分の人種を汚した罪により、その子孫はすべて黒人の祖先になったという伝説によって、その息子カナンに対する神の呪いを黒人に当てはめ、黒人は白人に仕えるべき運命にあるという解釈が成立した。人種間の結婚が神の意思に反するという信仰も、この伝説から生まれたとされる。また、神に選ばれた1人であるアブラハムは、妻サラの侍女であるエジプト奴隷のハガルにイシマエルを産ませたが、その後妻にイサクが生まれた。選ばれた家系をつくるアブラハム、サラ、イサクは南部白人と同一視され、ハガルとイシマエルは黒人奴隷とされた。旧約聖書の英雄が奴隷所有者であることや、パウロが主人への従順を勧告したり、逃亡者オネシモをピレモンへ返したりする事によって、奴隷制を是認していたということも、正当化に利用された。

黒人は、「薪を切り、水を汲むもの」（ヨシュア記9・21）であり、永遠に白人に奴隷として仕える存在であるとされた。この様に、理屈はどのようにでもなった。例えば、「すべての人間は、神に似て創られている。神は、だれでもがよく知っているように、黒人ではない。それゆえ、黒人は人間ではない。」にいたっては、屁理屈としか言いようがない。さらに、神は人間と動物の間のどこかに中間物をつくって、それを黒人と名付けたとされた。黒人はおどけた単純な人間であり、限界を越えなければ愛すべき存在だが、ペールの内側で生きなければならないよう厳格に義務づけられていると考えられた。

南部の奴隷所有者にしても、敬虔なクリスチャンであるから、神の意思に反する行為はしたくなかったに違いない。従って、聖書のなかには奴隷所有者が神や人間に対して罪を犯していると述べている箇所がなければ、良心の呵責を感じる必要はない。それどころか、奴隷制は神が是認しているうえに、そもそも自由に不向きな劣性の黒人に安全と保護を与えているのであり、上品で高尚な奴隷所有者は、劣性の人間の面倒を見ているのであるから使命感さえ持っていたことであろう。

しかし、そんな風に自分たちを虐げるキリスト教を何故彼らは受け入れていったのであろうか。それは、“白人の持つ権力へ至る鍵”としてである。最初の頃は、白人の迫害によって密かに信仰していた。それは、自分を人間として見てくれなくても、自身の存在を正当化してくれ、一番身近にあるキリスト教にすがって生きていくしかなかったのである。



●アフリカ音楽との関係（呼応形式）

18世紀にはいると黒人に対する布教活動は本格化していくが、文字を読めなかった彼らに対して、歌が聖書代わりに使われた。こうみると、黒人霊歌はヨーロッパ的部分を持つと思えるが、歌詞、リズム、和声の上から見て、本質的には故郷アフリカの音楽に則ってつくられている。その一つとしてコールアンドレスポンス（呼応形式）が挙げられる。これは、リーダーのソロとコーラスが交互に使うことである。ヨーロッパ音楽にもソロは存在するが、ソロは独立したものでしかなく、コーラスはソロの装飾である、多くを占める。アフリカ音楽においては、これが如実に現れる。アフリカ音楽では、合唱で歌われる曲は一般に、一人のリードシンガーあるいはカントール（主席唱者）もしくは何人かのリードシンガーと、それに対する一組の合唱と成り立っている。最も単純な形はリーダーが一節をまず歌い、それを合唱が繰り返すものである。その他の場合にはリードシンガーと合唱の歌うセクションで明確に分かれている。その最も単純なタイプでは、各部分が一つのフレーズでできていてリードシンガーが歌って合唱が答える。この応答はリードフレーズと同様の場合もあれば、その続きの場合もある。また、特異の例もある。ケニアのギリマア族やザイールのエコンダ族には、多声部構造に基づく合唱様式があり、呼びかけの部分が二、三人の歌い手によって声部に分かれて歌われまた合唱も同様にいくつもの声部に分かれて歌われている。



●イエス誕生の物語

12月25日、ナザレに住む夫婦ヨゼフとマリアは、住民登録のため二人して、ベツレヘムに来ていた。その夜登録を終え、宿を探すが見つからず、仕方なく二人は近くの家畜小屋を寝床とした。そして、飼葉桶の中で処女マリアが一人の男の子を出産する。これが、以前大天使ガブリエルから告知されていた、神の子イエス＝キリストの降誕である。その時、空は満点の星で輝いていたが、イエスが生まれたときその空が瞬間に明るく光り、天使がメシア（イエス）の生誕を皆に知らせた。それを聞いた、時の王ヘロデは、自分の存在の危うさから来る焦りから、イエスを尋ねようとしていた三人の博士に調査を依頼した。イエスに会ったその博士達は、イエスの存在に圧倒され、贈り物を贈る。この贈り物が、クリスマスプレゼントの発祥ともされている。

Ain'-a That Good News!

I got a crown up in - a the Kingdom,
Ain'-a That Good News!
I'm a- goin' to lay down this worl',
Goin'- a shoulder up- uh my cross,
Goin'- a take it home- a to my Jesus,
Ain'-a- that good news!

I got a harp up in- a the Kinddom,
Ain'- a that good news!
I'm a- goin' to lay down this worl',
Goin'- a shoulder up- uh my cross,
Goin'- a take it home- a to my Jesus,
Ain'- a that good news!

I got a robe up in- a the Kingdom
Ain'- a that good news!
I'm a- goin' to lay down this worl',
Goin'- a shoulder up- uh my cross,
Goin'- a take it home- a to my Jesus,
Ain'- a that good news!
Ain'- a that good news!

I got a Saviour in- a the Kingdom,
Ain'- a ghat good news!
I'm a- goin' to lay down this worl',
Goin'- a shoulder up- uh my cross,
Goin'- a take it home- a to my Jesus,
Ain'- a that good news!
Ain'- a that good news, good news,
My Lawd!

Mary Had A Bady

Mary had a Bady, My Lord!
Where was He born? Born in a manger.
Oh, Mary had a Bady born in a manger,
Oh, Mary had a Bady, My Lord!
What did they call Him? "King Jesus."
Oh, Mary had a Bady
He was called "King Jesus."
Mary had a Bady, oh yes!

He is called "King Jesus."
"Mighty Counselor."
"King Emanuel," "Mighty God,"
"Everlasting Father," "Prince of Peace."
Mary had a Bady, My Lord!

GO TELL IT ON THE MOUNTAIN

Go tell it on the mountain Over the hills
and ev'rywhere!
Go tell it on the mountain that Jesus
Christ is born!
While shepherds kept their watching
O'er silcent flocks by night,
Behold throughout the heavens there
shone a holy light.
Go tell it on the mountain Over the
hills and ev'rywhere!
Go tell it on the mountain that Jesus
Christ is born!
The shepherds feared and trembled
when lo above the earth.
Rang out the angels chorus that hailed
our Saviours birth.
Go tell it on the mountain Over the hills
and ev'rywhere!
Go tell it on the mountain that Jesus
Christ is born!
Down in a lowly manger our humble
Christ was born.
And God sent us salvation, that blessed
Christmas morn.
Go tell it on the mountain Over the hills
and ev'rywhere!
Go tell it on the mountain that Jesus
Christ is born!

Hail Mary

Mary had a lit'l baby born in Bethlehem,
Ev'ry time the lit'l baby cried,
she rocked Him in a weary lan.

(refrain)
Ain't that a - rockin' for the worl'?
Ain't that a - rockin' for the worl',
Oh, she rock'd an' rock'd
She rock'd Him in a weary lan.

He was born in a lowly manger,
'Cause there was foun' no room
in the Inn.

Every time the lit'l baby cried,
She rock'd Him in a weary lan.
(refrain)

Yes, there were shepherds
abidin' in the field,
Keepin' watch o'er their flock by night.
"Unto you a babe is born this day,"
said the angel of the Lord
to the Shepherds in the field.
Angel dall'd Him "Christ the Lord,"
But I call my Jesus "King Emanuel."
Ev'ry time the lit'l baby cried,
She rock'd Him in a weary lan.

Hail! Mary, Virgin Mary, Hail!
"Chile of God." Hail!
There were Shepherds abidin' in the field.
Keepin' watch o'er their flock by night.
"Unto you a babe is born this day,"
said the angel of the Lord
to the shepherds in the field.
Angel call'd Him "Dhrist the Lord,"
But I call my Jesus "King Emanuel."
Ev'ry time the lit'l baby cried,
She rock'd Him in a weary lan.
Ain't that a - rockin' for the worl',
Ain't that a - rockin' for the worl',
Oh, she rock'd an' rock'd
She rock'd Him in a weary lan'
all night long.

Mary's boy child Jesus Christ

Long time ago in Bethlehem, so the
Holy bible say,
Mary's boy child Jesus Christ, was born
on Chrisamas day,
Hark! now hear the Angels singin' an'
now king boms Today,
and man will live for evermore because
of Chrisamas day.
Trampet sound an the Angels singing
Listen what they say
that man will live for evermore, because
of Chrisamas day.
While shepherd watched their flocks by
night, they see bright new
shining star, and they hear a choirsing, it
seemed to come from
far. Hrk! now hear the Angelssingin'
an' new king boms Today,
and man will live for evermore because
of Chrisamas day.
Trampet sound an' the Angels singing
Listen what they say
that man will live for evermore, because
of Chrisamas day.
Mye Mary's boy child, Jesus Christ,
He's born on Chrisamas day,
When Jeseph and his wife Mary came
to Bethlehem that night.
They find no place for to born her child,
not a single room was
in sight. Then by and by they find a little
nock in a sttable
all forlorn and in a manger cold and dark
Mary's little boy was
born. Mye Mary's boy child, Jesus
Christ, He's born on Chrisamas
day. The three wisemen tell old King
Herod we hear a new King
born today. We bring Him franlorn
Sense and myrth, we came from
faraway. When old King Herod, He
learn this news he mad as he
can be. He tell the wisemen fine this
child so that I may won
ship He, Mye Mary's boy child, Jesus
Christ, He's born on Chrisamas
day.

Ev'ry Time I Feel The Spirit

Ev'ry time I feel the spirit,
Moving in my heart, I will pray;
Yes, Ev'ry time I feel the spirit,
Moving in my heart, I will pray.
Upon the mountain my Lord spoke,
Out of His mouth came fire and smoke;
Looked all around me, it looked so fine,
Till I asked my Lord if all was mine.
Ev'ry time I feel the spirit,
Moving in my heart, I will pray;
Yes, Ev'ry time I feel the spirit,
Moving in my leart, I will pray.
Jordan river is chilly an' cold,
It chills the body, but not the soul;
There ain't but one train upon this track,
It runs to heaven an' right back.
Ev'ry time I feel the spirit,
Moving in my heart, I will pray;
Yes, Ev'ry time I feel the spirit,
Moving in my heart, I will pray.

Stage 3

男声合唱組曲 水のいのち

作詩：高野喜久雄

作曲：高田三郎

指揮：伊東恵司

ピアノ：西川秀人

「水のいのち」

～歌声の周辺から～

やさしく降り頻る葡萄色の雨…。永遠の時間が風景と匂いと雨粒の宝石のような輝きの中に混在しているかのような情景。世界の全てに…草や木や土や岩、庭にも建物にも、敵にも味方にも…、そして「死者」にも「生者」にも等しく降り注ぐ雨。濡れそぼった情景…。音はみな雨の情景の中に消え、世界は始源と終末の交錯したひたすらに美しいためらいの中にある…。

「水のいのち」はそんな美しい雨の情景から始まる。

空から地上に降り注いだ「雨水」が乾いた世界を潤し、蘇生させ、池を作り、川を作り、海へ流れ、そしてあらゆる植物や動物の生命を育み、再び空へと昇華されていく…。昇華された水は再び雨となって世界にやさしく降り注ぐ…。世界全体の営みを象徴したようなこの「水の輪廻」からは壮大な時間的、空間的なスケールと、それ以上に、人間を始め「あらゆる生命を司る水」としての荘厳さが溢れ出ている。

ただ、これは水の一生を描いた物語をいうよりは、主題はあくまでも「水の魂」とも言えるべきものであろう。水の魂とは決して物資としての水のことでも、その低いほうへ流れて行く性質のことでもなく、反対に「空をうつそう」とするものであったり、「山や空の高みに焦がれる」気持ちであったりするのである。高田三郎はその魂のことを「それがあれば生きていけるが、それを失うと死んでしまうもの」と定義しているが、明らかにこの主題が流転し変容していく人間の生命から漲る「あこがれの気持ち」にも似たものであることが直感出来る。

例えば組曲の最後の部分では「みえないつばさ いちずなつばさ あるかぎり、のぼれ、のぼりゆけ…」と歌うことになるが、この部分はある意味では組曲全体の主題の集約でもある。それは蒸発という自然現象を単に描写している訳でも、その営みを大自然の姿として描いているだけでもない。そこには確実に我々の心に生命の原動力として存在している一つの「思い」があるはずなのだ。つまり、この「いのち」という言葉には物理的、科学的な、あるいは区切られた生の憧れに向けて燃焼させよう…とする、能動的な「思い」が働いているはずなのである。美しい情景描写の奥にそれを見逃したくはない。

水の魂は悩み、考え、問い掛けたあげく、海に向かって流されていく。そして、そこで大いなる神聖によって抱かれ、癒され、清められる。大いなる神聖は長い年月を経て「満ち足りた死」を打ち上げる。その海辺の光景こそが眩いばかりの光に満ちた印象的な瞬間である。珊瑚やヒトデや貝殻を放り出した海辺の光景…。そして、そのきらめくような静寂の光景を見守るのは、「海に番った太陽」であるのかも知れない。

「やっと見つけた永遠の瞬間」

海に番った太陽に励まされるようにして、その事をしっかりと確認しながら、水の魂たちはやがて、静かに翼を広げ始めるのである。

この曲は1964年の初演以来、混声合唱の屈指の名曲として多くの団体に歌い継がれてきている。(福永陽一郎指揮のあのベストセラーレコードのことについては、陽ちゃん先生から何度もお話を伺った思い出がある…)

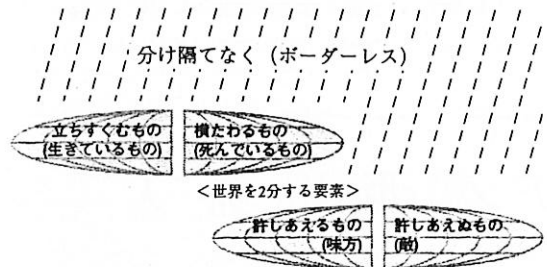
そして、男声合唱版は、同志社グリーンクラブOBであるクローバークラブの委嘱(1972年初演 日下部吉彦指揮)によるものである。

それぞれのパートの性格を掴みきった音遣いによる美しいハーモニー。日本語の柔かな語感。音の裏付けたる強いメッセージ。合唱の原点ともいえるこの曲の魅力やその楽しみ方については、夏合宿以来、学生たちと一緒に確認してきた。風格ある演奏とは言わない…、ぎこちなくも溢れるメッセージがあれば…。爽やかに、あるいはもどかしさをぶつけながらも懸命に歌うことが出来れば…、と思っている。

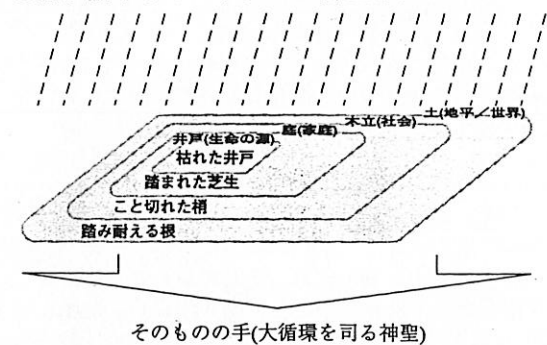
伊東恵司

1. 雨

●雨が濡らしていくもの…無限の時間/空間

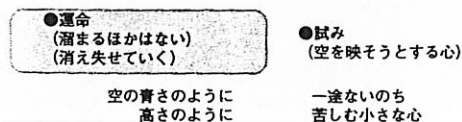


●雨が濡らしていくもの…蘇生される



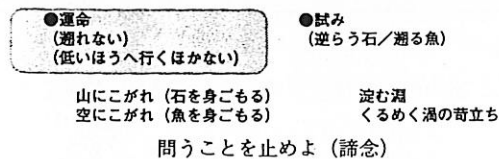
2. 水たまり

<逃れられない定め>=私たちに似ている



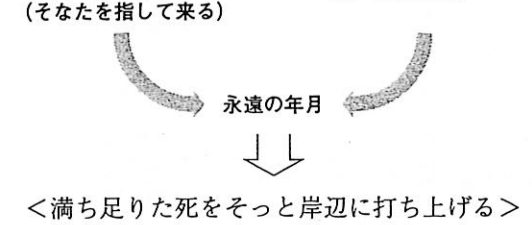
3. 川

<逃れられない定め>=私たちがまた



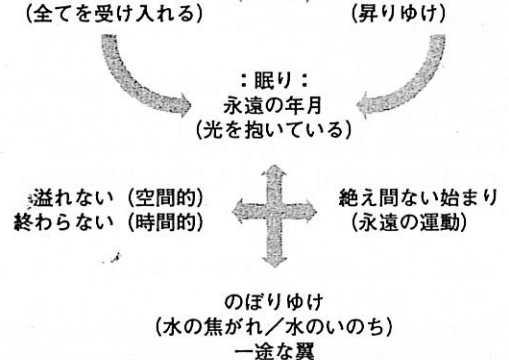
4. 海

<母性への回帰> (全ての川は流れ来る) (そなたを指して来る) <永劫回帰/輪廻> (波の反復運動)



5. 海よ

<帰着点> (疲れ果てたもの) (全てを受け入れる) <再生/昇華> (新しく蘇る) (昇りゆけ)



ふたたび「1. 雨」へ

1. 雨

降りしきれ 雨よ
降りしきれ
すべて
立ちすくむものの上に
また
横たわるものの上に

降りしきれ 雨よ
降りしきれ
すべて
許しあうものの上に
また
許しあえぬものの上に

降りしきれ 雨よ
わけへだてなく
洒れた井戸
踏まれた芝生
こと切れた梢
なお 踏み耐える根に

降りしきれ
そして 立ちかえらせよ
井戸を井戸に
庭を庭に
木立を木立に
土を土に

おお すべてを
そのものに
そのもののに

2. 水たまり

おだちの くぼみ
そのの ここの
くぼみにたまる
水たまり
流れるすべも めあてもなくて
ただ

だまって
たまるほかはない
どこにでもある 水たまり
やがて

消え失せてゆく
水たまり
わたしたちに肖っている
水たまり

わたしたちの深さ
それは泥の深さ
わたしたちの言葉
それは泥の言葉
泥のちぎり
泥のうなぎ
泥のまどい

だが
わたしたちにも
いのちはないか
空に向う
いのちはないか
あの水たまりの にごった水が
空を うつそうとする
ささやかな
けれどもいちずないのちはない
のか

うつした空の
青さのように
澄もう と苦しむ
小さなころ
うつした空の
高さのままに
在ろう と苦しむ
小さなころ

3. 川

何故 さかのぼれないか
何故 低い方へゆくほかはない
か

よどむ淵 くるめく渦のいらだ
ち
まこと 川は山にこがれ
きりたつ峰にこがれるいのち
空の高みにこがれるいのち

山にこがれて 石をみごもり
空にこがれて 魚をみごもり

さからう石は 山の形
さかのぼる魚は 空を耐える

だが やはり 下へ下へと
ゆくほかはない 川の流れ

おお 川は何か
川は何かと問うことを止めよ
わたしたちもまた
同じ石を 同じ魚を みごもり
もの
川のこがれを こがれ生きるも
の

4. 海

空をうつそうとして
波一つなく 風ぐこともある
岩と混じれなくて
ひねもす
たけり狂うこともある

しかし
凡ての川はみな
そなたをさして常に流れた
底に沈むべきものは沈め
空にかえすべきものは
空にかえした

人でさえ 行けなくなれば
そなたを さしてゆく
そなたの中の 一人の母をさし
てゆく

そして そなたは
時経てから 充足足りた死を
そっと岸辺にうち上げる
みなさい
これを 見なさい と 云いた
げに

5. 海よ

ありとある 芥
よごれ 疲れはてた水
受け容れて

すべて 受け容れて
つねに あたらしくよみがえる
海の 不可思議

休まない 汀
波の指 白い指 くりかえし
うまず くりかえし
億の砂 億の小石を
数えつづける
海の 不可思議

くらげは 海の月
ひとつでは 海の星
海螢 海の馬 空にこがれ
あこや貝は 光を抱いている

そして 深い暗い 海の底では
下から上へ
まこと 下から上へ
雪は
白い雪は 降りしきる

おお 海よ
たえまない 始まりよ
あふれるに みえて
あふれる ことはなく
終わるかに みえて
終わることなく
億年の むかしも いまも
そなたは
いつも 始まりだ
おお 空へ
空の高みへの 始まりなのだ

のぼれ のぼりゆけ
そなた 水のこがれ
そなた 水のいのちよ

たとえ 己の重さに
逆いきれず
雲となり
また ふたたび降るとしても

のぼれ のぼりゆけ
みえない つばさ
いちずな つばさ あるかぎり
のぼれ のぼりゆけ
おお

(注記：解釈図は遊び心を持ったひとつのイメージにすぎません)

幸運にも本場の「ボーギーとベス」に出会った。それは忘れもしない2回生の冬、卒団生のためのフェアウェルコンサートの翌日で、二日酔いでふらふらな身体をひきずりながらやっとの思いでフェスティバルホールに辿り着いた私を待っていたものは、ヒューストン・グランドオペラによる強烈なガーシュイン・ワールドであった。オールブラックキャスト（出演者全員が黒人歌手）による心の奥底に染みわたる声の数々、次から次へと途切れることなく生まれ出るストーリーと劇的な緊張感に、その夜は前日の疲れもどこへやら、私はただ無我夢中でその舞台に酔いしれていた。

ジョージ・ガーシュインがアメリカ音楽界の中でも特に卓越した天才作曲家であることはもはや疑いようのない事実である。中でも「ボーギーとベス」の存在は早くから注目されていたものの、当時のさまざまな政治情勢に反映されてかその批判は厳しく、この作品がアメリカ最高の本格的なオペラと言われるようになるまでには相当な時間を要した。日本での初演もわずか7年前であるが、さらにより多くの人々に愛されるべきオペラであることは間違いなく、その評価も今後ますます高まることであろう。

この作品の男声合唱版を編曲された故福永陽一郎先生は早くからこの作品の魅力に着目され、後に同志社グリークラブの演奏会などでご自身の指揮によって何度も演奏されている。その始まりはおおよそ40年前前であるというから、「陽ちゃん先生」の先見の明にはただただ感服するばかりではない。爾来「ボーギーとベス」は同志社グリークラブにおいて、慶應ワグネルの「タンホイザー」のごとく、最も愛されるレパートリーとして脈々と受け継がれてきた。オペラとしては完全なオールブラックキャストによる上演でしか許されていないこの作品を、東洋人の男声合唱で、しかも今回のステージにおいては学生指揮者の棒によってどこまでその音楽をきちんと表現することが出来るのか、正直不安がないわけではない。しかし「陽ちゃん先生」の描かれた音符1つ1つに刻まれている「ボーギーとベス」に対する情熱を再び立ち起こしながら、単なる合唱編曲にとどまらずあくまでも1つの芸術作品であることにこだわり、アマチュアだからこそ、学生であるからこそ、最も真摯な態度で音楽に対する誠実さと熱意を持って歌いたい、体の奥底から沸き上がるありとあらゆる感情、エネルギーを十分に注ぎ込んだ熱いステージでありたいと願うものである。

なお本日の演奏に際し、いろいろな方々から数多くの貴重なアドバイスをいただいたが、特に私の心の支えとなる励ましのお言葉をくださった関西学院グリークラブ常任指揮者でおられる北村協一先生と、楽譜・音源など資料面で大変お世話になった同じく関西学院グリークラブの指揮者の広瀬康夫先生にはこの場を借りて深く感謝の意を表したい。また学生の未熟な指揮であるにもかかわらず、長田育忠先生、雑賀美可先生、田中由也先生には今回の共演を快くお引き受けいただいた。いくら気弱(!?)な学生指揮者といえども、これだけ贅沢なキャストイングがそろえば、ぐだぐだと弱音を吐いているわけにはいかない。ただひたすらに大胆かつ繊細に同グリの「ボギベス」をお見せ(お聴かせ)するのみである。どうかホール一杯に響きわたるシンフォニーオペラを心ゆくまでお楽しみください。

Stage 4

オペラ “Porgy & Bess” より

作詩：デュボース・ハイワード&アイラ・ガーシュイン

作曲：ジョージ・ガーシュイン

編曲：福永 陽一郎

指揮：小林 香太

ピアノ：長田 育忠

ソプラノ：雑賀 美可

バリトン：田中 由也

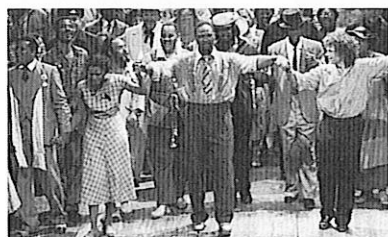


ジョージ・ガーシュイン (1898-1937)

アメリカにおけるジョージ・ガーシュインの人気は、我々日本人の理解を越えるところがある。「ほくたちアメリカ人の音楽を初めて作ってくれた人」として、ガーシュインはいわばアメリカの国民的英雄であり、永遠のスーパースターである。

ジョージ・ガーシュインが国民音楽の創世に貢献したという点では、わが国の滝廉太郎とか山田耕筰に似ている。とは言え、絶大な人気という点では滝も山田もガーシュインには叶わないだろう。

ジョージ・ガーシュインは1898年9月26日、ニューヨークのブルックリンで生まれた。12歳の時、両親が後に作詞者として有名になる兄のアイラのために買い求めたピアノをジョージが独占するようになり、チャールズ・ハンピントンからの指導のもとクラシック作品にも開眼する。そして「ティン・パン・アレー」と呼ばれるニューヨークの軽音楽の楽譜屋街で、新曲を客に弾いて聞かせる仕事をする一方、作曲の仕事も手がけ、数々のヒットをとばす。当時、ジョージが手がけていた曲のほとんどはポピュラー音楽であったが、1920年代（後に「ジャズ・エイジと呼ばれる時代」）に入り、南部の黒人が育てあげたジャズがアメリカじゅうに浸透し始めたこのころ、ジョージは一幕物のジャズ・オペラを書こうと思いついたのだ。そして1922年それが実現された。このオペラは「ブルー・マンディ・ブルース（のちにブルー・マンディとなる）」という名で登場人物はすべて黒人、舞台はハーレムの「135丁目とレノックス街の近くの地下酒場」などなど、この作品自体はあまり受けが良くなくすぐに外されてしまったが、いくつかの点でこの作品が後のオペラ、「ボーギーとベス」への布石となっていた。その後、軽音楽指揮者ポール・ホワイトマンにジャズ風の協奏曲を書かないかと依頼され、かの「ラブソディ・イン・ブルー」を完成。この作品は一段とジョージ・ガーシュインの地位を上げ、今日に至るまで世界中で愛されて来た。多忙に見舞われたジョージは1932年、仕事の一段落が着いたところで、1926年からずっと温めてきた、デュボース・ハイワードの小説「ボーギー」のオペラ化に取り組み始めた。オペラ「ボーギーとベス」の誕生である。



オペラ

「Porgy and Bess」

Since 1935~

第1幕

時は1920年代サウスカロライナ州はチャールストンの、キャットフィッシュ・ロウ（なまず横丁）と呼ばれる貧しい黒人街に住む、ボーギーという足の不自由な男の物語である。

ある夏の宵、仕事から戻って来た男達は賭博に興じている。やがて、両足の不自由なボーギーも山羊車に乗り登場するが、目当ては乱暴者クラウンの情婦ベスらしい。そこへ当のクラウンがベスを連れて登場、賭博に参加するが、ロビンスと口論となりクラウンは逆上のあまり彼を殺してしまう。クラウン自身は難なく逃亡するが、残されたベスに救いの手をさし向ける者はいなかった。絶望に陥ったベスを最後には助け、か

くまってやったのはあのボーギーであった…。

I. Summertime (サマータイム)

Summertime, and the livin' is easy.
Fish are jumpin', and the cotton is high.
Oh, Yo' daddy's Rich,
and yo' ma is good-lookin',
So hush, little bady,don't yo' cry.

One of these mornin's,
you goin' to rise up singin'.
Then you'll spread yo' wings an'
you'll take the sky
But till that mornin'
there's a nuttin' can harm you.
With Daddy an' Mamma standin' by.

Life can be like summertime.
Seven come, seven come to pappy!
Throw dat beautiful number!
Come seven to me! Year, man!
I'll bet yo'wrong, I'll bet he's right,
Gettin hot!
Come seven! Shoot!
Made it!

Ol' man seven come down from heaven!
Don't yo' cry!

II. A woman is a sometime thing (女は気まぐれ)

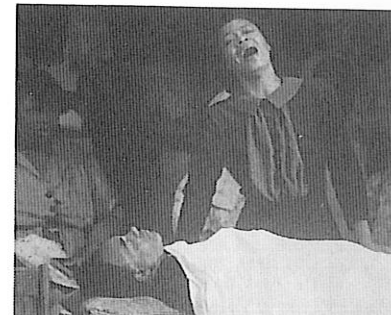
Listen to yo' daddy warn you,
fore you start a traveling.
Woman may born you, love you an' mourn you,
But a woman is a sometime thing.
Yes, a woman is a sometime thing.
Oh, a woman is a sometime thing.
Yo' mammy is the first to name you,
an' she'll tie you to her apron string.
Then she'll shame you and she'll blame you
till yo' woman comes to claim you,
'Cause a woman is a sometime thing
Yes, a woman is a sometime thing
Oh, a woman is a sometime thing
Don't you never let a woman grieve you.
Jus' 'cause she got yo' weddin' ring.
She'll love you an' deceive you
then she'll take yo' clo'es an' leave you,
'Cause a woman is a sometime thing.
Yes, a woman is a sometime thing.
Yes, a woman is a sometime thing.
Yes, a woman is a sometime thing.
Ah~

(《Summertime》は漁師ジュイクの妻クララが子供を寝かしつけるために唄った子守歌。クララは賭博に興ずる男達の声を背に子守歌を繰り返すが、寝つきの悪い子供に薬を煮やしたジュイクは《A woman is a sometime thing》を唄い、あやす。)

III. My man's gone now (あの人は死んでしまった)

Gone, gone, gone,
gone, gone—
My man's gone now, Ain't no use alistenin'
For his tired foot-steps climbin' up the stairs.
Ah, ole Man sorrow's come to keep me comp'ny
whisperin beside me
when I say—my prayers Ah
Ain' dat I min workin',
work an me is travellers.
Journeyin in' together to de promise land,
But ole Man sorrow's marchin'
all de way wid me.
Tellin' me I'm ole now
Since I lose my man
(Since she lose her man.)
Ole man sorrow,
Sittin' by de fireplace,
Lyn'all night long by me in my bed
Tellin' me de same thing mornin'
moon an' eb'nin'
That I'm all alone now since my man is dead
Since my man is dead.

(乱暴者の沖仲士クラウンにロビンスを殺されてしまったセリナは、《My man's gone now》を歌い、嘆き悲しむ。)



第2幕

1か月後のキャットフィッシュ・ロウ。ボーギーとベスは同棲を始め、誰の目からも二人は幸せそのものだった。そこへ麻薬の密売人のスポーティング・ライフ、漁師のジュイク、その妻クララらがベスをピクニックへ誘いにやって来た。足の不自由なボーギーは当然、行くことができず街に残らなければならなかった。ベスはためらったが、お互いを信じることで結局皆に従い出かけて行く。

ピクニックの日の夕刻キティワ島。一行は浮かれ騒ぎ、日が沈むと共に帰りの船に乗り込むが、ベスは船を逃してしまふ。そこへロビンス殺害事件以来姿をくらましていたクラウンが彼女の前に現れ、強引にもベスを奪ってしまう。

それから一週間後。ピクニック以来ベスの様子が変なのでセリナがお祈りをしている。外では嵐の気配の中、漁師たちが船出の用意をしている。ついにベスは事実をボーギーに告白するが、彼は動じなかった。嵐はそこまできている。翌日の朝、セリナの家、外は大嵐。クララが漁中の夫ジュイクを案じていると、突然、クラウンがベスを取り戻しに飛び込んでいる。折りも折、ジュイクの船が転覆しているのを見、気が動転したクララは嵐の中に走り出して行く。クラウンも彼女を追って嵐の中に飛び出して行くが、二人はそれきり帰ってこなかった。

IV. I got plenty O' nuttin' (おれは無い事に欠く事はない)

Oh, I got plenty O' nuttin,
An' nuttin's plenty fo' me
I got no car, got no mule, I got no misery.
De folks wid plenty o' plenty got a lock
on de door,
'Fraid somebody's agoin' to rob'em while
deys out amakin' more.
What for?
I got no lock on de door, (dat's no way to be)
Dey kin steal de rug from de floor,
Dat's okeh wid me,
Cause de things dat I prize,
Like de stars in de skies, all are free,
Oh, I got plenty o' nuttin',
An' nuttin's plenty fo' me.
I got my gal, got my song,
got Hebben de whole day long.
No use complainin'!
Got my gal, got my Lawd, got my Song.
Porgy change since dat woman
come to live with he.
He ain' cross with chillen no more,
an' ain't you hear how he an' Bess all
de time singin' in their room?
Happy!
I got plenty o' nuttin',
An' nuttin's plenty fo' me
I got de sun, got de moon,
got de deep blue sea.
De folks wid plenty o' plenty
Got to pray all de day.
Seems wid plenty you sure got to worry
how to keep de debble away,
I ain't afrettin' bout hell, Till de time arrive.
Never worry long as I'm well.
Never one to strive to be good, to be good,
to be bad, what de hell I is glad I's a live
Oh, I got plenty o' nuttin',
An' nuttin' s plenty fo' me
I got my gal, got my song,
Got Hebben de whole day long.
No use complainin'!
Got my gal, got my Lawd,
got my song!

(幸せそうに《I got plenty o' nuttin》を歌うボーギー。彼はベスと同棲し始めてからさげななのだ。)

V. Bess, You is my woman now
(ベス、お前はおれのものだ)
porgy/Bess, you is my woman now, you is,
you is! An' you mus laugh an' sing
an' dance
for tow instead of one.
Want no wrinkle on yo' brow, now how,
because de sorrow of de past is all
done
Oh, Bess my, Bess!
De real happiness is jes' begun.
Bess/Porgy, I's yo' woman now, I is,
I is! An'I ain' never goin'
nowhere less you shares de fun
Dere's now wrinkle on my brow, no how,
but I ain' going, you near me sayin',
if you ain' goin', wid you I'm stayin'
Porgy,
I's yo' woman now!
I's yours for ever
Mornin' time an' evnin' time
an' summertime an' wintertime
Porgy/Mornin' time an' evnin' time
an' summertime an' wintertime
Bess! you got yo man,
Bess, you is my woman,
Bess/Porgy I's yo' woman now.
Porgy/an' forever Dis life jes begun,
Bess/I is, I is! An' I ain' never goin'
nowhere' less you shares me fun.
Porgy/Bess, we two is one.
now an' forever.
Oh, Bess, don' min' do woman
you got yo' porgy,
Bess/Dere's no wrinkle on my brow no how,
but I ain' goin'!
Porgy/I knows you means it,
I seen it in yo' eyes Bess we'll go
swingin'
through de years a singin'
Bess/You hear me sayin if you ain' goin',
wid you I'm stayin porgy,
I's yo' woman now!
I's yours forever,
Mornin' time an' evnin' time
an' summertime an' wintertime.
Porgy/Mornin' time an' evnin' time
an' summertime an' wintertime.
Porgy & Bess/oh my Bess (porgy) my Bess
(porgy).
From dis minute I'm tellin' you,
I keep dis vow Bess (porgy).
Bess/I's yo' woman now.
Porgy/We's happy now,
we is one now.

麻薬の密売者でさまざまな悪業、スポーティ
ング・ライフがベスたちをピクニックに誘
いにきた。ベスは気乗り薄だが、二人の仲
を確かめるようにボーギーとベスは愛の
二重奏《Bess, You is my woman now》
を歌い、ベスはボーギーと離れ、出かけて
行く。

I can't, jes' can't, sit down!
(ピクニックにやって来た皆は、
《oh, I can't sit down》を歌い、うかれる。)

VII. It ain't necessarily so
(そうとも限らんぜ)
It ain't necessarily so,
De t'ings dat yo' lible to read in de Bible,
it ain't necessarily so.
Li'l David was, but oh my!
He fought big Goliath who lay down an' dieth,
Li'l David was small, but oh my!

Wadoo— Zim bam baddleeo—
Hoodle ah da wa da— Scatty wah.—
Yeah!

Oh, Jonah, he lived in de whale,
Fo' he made his home in Dat fish's abdomen.
Oh, Jonah, he lived in de whale,
Li'l Moses was found in a stream,
He floated on water Till Ole Pharaoh's
daughter,
She fished him, she says, from dat stream.

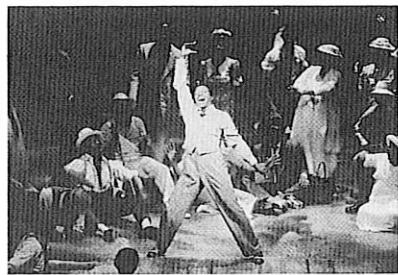
Wadoo— Zim bam baddleeo—
Hoodle ah da wa da— scatty wah.—
Yeah!

It ain't necessarily so,
Dey tell all you chillun De debble's a villun,
But it ain't necessarily so

To get into Hebben don' snap for a sebben!
Live clear! Don' have no fault.
Oh, I takes dat gospel whenever it's pos'ble,
But wid a grain of salt.

Methus'lah lived nine hundred years,
But who calls dat livin when no gal'll give
in to no man what's nine hundred years?
I'm preachin dis sermon to show,
It ain't necessarily so.

(ピクニックの浮かれ騒ぎの中、スポーティ
ィング・ライフが《It ain't necessarily
so》を歌い、面白おかしく悪の礼讃をす
る。



第3幕
再び夕刻のキャットフィッシュ・ロウ。クララたち
嵐の犠牲者を弔う声が聞こえる。やがて外に人気があ
くなくなると、死んだはずのクラウンが姿を現し、ナイフ
を手にボーギーの部屋に忍び寄るが、ボーギーは逆に
彼を刺殺する。翌日の午後、刑事が捜査にやってきて、
ボーギーを死体確認のために連れ去ってしまう。ボー
ギー留守の間、寂しげなベスの前にスポーティン
グ・ライフが現れ、彼女を誘惑しまんまとニューヨークへ連
れ去ってしまった。
一週間後、無罪で意気揚々とボーギーは帰ってくる
が、ベスはもう居ない。半狂乱となりベスを探すボー
ギー。ついに彼はベスが麻薬売りと駆け落ちしたことを
知るのだが、ベスが生きている事を知ったボーギー
は悲しむわけでもなく、ベスを訪ねてニューヨークへ
と出発し、オペラは全幕幕となる。

VIII. There's a boat Dat's leavin' soon
for New York
(もうじきニューヨーク行きの船が出るぜ)
There's a boat dat's leavin' soon for New York.
Come wid me, dat's where we belong, sister.
You an' me kin live dat high life
in New York.
Come wid me, dere you can't go wrong, sister.

VI. Oh, I can't sit down
(とてもじっとしてられない)
Oh, I can't sit down!
Got to keep agoin' like de flowin' of a song.
Oh, I can't sit down!
Guess I'll take my honey an' her sunny smile
along!
Today I is gay an' I's free,
Jes'a bubblin nothin' troublin' me.
Oh, I's gwine to town
I can't sit down.
Happy feelin' in my bones a stealin',
no concealin' Dat is picnic day.
Sho'is dandy, got de lickin handy,
Me an' Mandy we is on de way' cause
dis is picnic day.
Oh, I can't sit down!
Got to keep a jumpin to de thumpin' of de
drum!
Oh, I can't sit down!
Full of locomotion like an ocean full of rum!
Today I is gay an' I's free,
Jes'a bubblin' nothin' troublin' me.
Oh, I's gwine to town.

I'll buy you de swellest mansion,
Upon upper 5th Avenue
An' through Harlem we'll go struttin',
we'll go a struttin', An' derell be nuttin'
too good for you
I'll dress you in silks and satins, In de latest
Paris styles.
All de blues you'll be forgettin',
You'll be forgettin'
There'll be no frettin',
Jes' nothin' but smiles.
Come along wid me, dat's de place,
Don't be a fool, come along,

There's a boat dat's leavin soon for New York
Yes! Come wid me, dat's where we belong,
sister, dat's where belong.

(ボーギーが刑事に連れてゆかれ、ベスの
前にスポーティン
グ・ライフが現れた。ス
ポーティン
グ・ライフは、ベスに麻薬を飲
ませ、《There's a boat that's leaving
soon, for New York》を歌いベスを誘惑
する。そしてニューヨークへまんまと連
れ去ってしまった)

IX. Bess, Oh where's my Bess
(ベス、おれのベスはどこにいるんだい)
Bess, oh where's my Bess,
won't somebody tell me where?
I ain't care what she say.
I ain't care what she done,
won't somebody tell me
Where's my Bess?

My Bess! I want her now,
Widout her I can't go on.
I counted de days dat I was gone
till I got home to see her face
Won't somebody tell me,
Where's my Bess?
I want her so, my gal, My Bess.
Where is she?

Oh Gawd, in yo' big Heaven,
Please show me where I mus' go,
oh give me de strength show me de way!

Tell me de truth,
Where is she,
Where is my gal,
Where is Bess!

X. Oh, Lawd, I'm on my way
(おお、神様、出発だ)
Oh, Lawd, I'm on my way,
I'm on my way to a Heav'nly Lan',
I'll ride dat long, long road,
If you are there to guide my han'.
Oh, Lawd, I'm on my way.
I'm on my way to a Heav'nly Lan'
Oh Lawd, It's a long, long way,
but you'll be there to take my han'.

(ボーギーは戻って来たが、ベスはい
ない。《Bess, oh where's my Bess》を歌
いながら彼女を探すが、やがて彼は彼女が麻
薬売りと駆け落ちしたのを知り、失望もせ
ず、意気揚々と《Oh, Lawd, I'm on my
way》を歌いながらベスを訪ねてニュ
ーヨークへ向け、不自由な足そのままに出発
したのであった。

第66回関西学院グリークラブリサイタル

◇MISSA in G dur in hon, St. Caroli Borromaei 指揮：林雄一郎 オルガン：岡安早苗
◇musical "The Student Prince" 指揮：平田誠一郎 ピアノ：細見真理子
◇"Old American Songs" 指揮：広瀬康夫 ピアノ：藤田雅
◇男声合唱組曲「雪明りの路」(現役・OB合同ステージ) 指揮：北村協一
◇合唱組曲「日曜日」-ひとりぼっちの祈り- 指揮：北村協一 ピアノ：藤田雅

1998年1月31日(土) OPEN 15:30 START 16:30
ザ・シンフォニーホール



お問い合わせ
関西学院グリークラブホール
Tel・Fax 0798-52-6471

神戸女学院大学コーラス部第38回定期演奏会

I MISSA ~Salve Regina Pacis I~ 指揮：井上真美子/伴奏：片桐聖子
II 女声合唱曲「永訣の朝」 指揮：嶋江奈美 /伴奏：若林真理
III 企画ステージ「How to Succeed」 編曲：中村 健 /指揮：井上真美子
IV 女声合唱曲「遙かな歩み」 指揮：井上真美子/伴奏：浦部紘子

1998年2月28日(土) 開場 17:30 開演 18:00
尼崎市総合文化センターアルカイクホール
(連絡先) 吉田真由美 0726-33-1347

早 同 関

慶

集結。

1998, 6, 28(日)

第47回
東西四大学合唱演奏会
フェスティバルホール

お問い合わせ/同志社グリークラブ BOX TEL 075-251-3185(呼)
関西学院グリークラブホール TEL/FAX 0798-52-6471

響感 カンパニー

「打てば響く」という言葉があります即座に反応することを意味しますが
 私たち双林も常にそうありたいと考えています
 お得意様が求めていることを すばやく感じとり 形に変える
 そんなお互いの心に響きあうおつきあいを大切にしています

アイデアと技術で情報産業を担う
株式会社 双林印刷社
 本社・工場 〒601 京都市南区新千本通十条下ル
 Tel. (075) 681-7748 Fax. (075) 672-5602

〈新勧活動〉

大学での“性春”生活に、胸を高鳴らせる新入生たちに、紺ブレ男が声をかける。

現役女子大生をかたわらに食事をおごり登録相談をし、その上でミニ演奏会に誘う。最後の曲を歌い終わるや否や、「入れコール」が始まる。今年、その場から逃げ出す新入生も続出する始末で、同グリ存亡の危機かと思われたが、長時間にわたる説得と、夕食会で飲まされるビール、そして極めつけはついさっきまでとなりで座り話しをしていた先輩の脱ぎっぷり、ここまできてしまうとさすが新入生も、「入部します」といってしまうのである。そのかいあって、数は少なめながら、大粒ぞろいの頼りになる新入生を迎えることができた。

もちろん、中には、自らグリークラブの門を叩く者もいて、我々を喜ばせてくれるだけでなくブチ切れさせてもくれるのだった…。

(Top II 教育係)

〈四連、そして同関〉

「DISSEMINATION」-20世紀のアメリカ合唱曲から一。男声合唱としては少し新鮮なこの曲を、指揮に本山先生をお迎えして、我々は今年東京である四連に挑戦だ。長田先生のピアノとともに単独ステージを終え、多田先生の合同演奏「富士山」を経てストームへとなだれ込んだ。

学生男声合唱界最大のイベントといわれる東西四連、その名に恥じぬ各団の個性を生かした演奏が、同じステージでぶつかり合う。

す、素晴らしい。あの日の全ての演奏が人見記念講堂の聴衆を魅了し、熱い音楽の空間を共有できたと確信する。演奏会が終わっても、静まらない我々のボルテージは、ハチ公前での延長戦、打ち上げ会場での「洗濯屋」へと注ぎ込まれた。そして大阪、いずみホールにて胎動した同関では、「僚友」関学グリーと共に互いに名演奏を繰りひろげた。

幸いオーディションの苦勞も、会場の鳴りやまない拍手で、報われるのでした。

(Bari II ウッチー)

〈国内演奏旅行〉

毎年恒例の演奏旅行とは、フレッシュのデビューステージであり、また日頃グリーの素晴らしい歌声を聴く機会がないという非常に不幸な方々にグリーというものを知って頂くことなど、とにかく重要な行事なのである。

さて今年高松と岡山にグリーメンは出現した。一日目の高松では香川県民ホールのデカさに少しビビったりもしたけど、OBの方々と合同演奏をさせて頂くなど演奏会の方は大成功をおさめたのである。二日目以降は残念ながら（喜んでいたヤツもたくさんいたような気がするが）フレッシュのみんなには帰ってもらい上回生だけで岡山へ行きノートルダム清心女子大学のみなさんとジョイントコンサートをして、これまた大成功をおさめたのである。レセプションでは女子大のみなさんと楽しいひと時を過ごさうとして今年の楽しい演奏旅行は幕を閉じたのである。

最後に御協力頂いた現地の方々とOBに厚く御礼申し上げます。

(Top II ゴン太くん)

同志社グリーメンを知らない貴方に捧ぐ……

GLEE LIFE '97

TAMA - HIME - DEN

ちょっと気取ったパティール・プラン
 一人様¥6,500 (飲み放題)より

 **梅田玉姫殿**

〒530 大阪市北区鶴野町4-16
 TEL (06) 374-3333(代)

〈関西六大学合唱演奏会〉

冬の寒さが身にしみてきた十一月、ここ、フェスティバルホールに今年も熱き男達が集う関西六連の日を迎えた。立命、関学、阪大、関大、甲南、そして我ら同志社の各ステージは、各団の個性が発揮され大いに聴衆を魅了し、そして各団の合唱に対する想いが結集した合同演奏では、六団の怒涛のような歌声がホール一面にこだまし、また、それに答えるかのように、満場の拍手が起こる。これぞグリーメンの至福の時である。この演奏会で一回生はそれを初めて味わうのである。思えば君たちも、右も左もわからず、ただひたすら先輩に喰らいついていき、オーディションという難関を乗り越え、全力で歌い続けてきたのだ。その君たちの情熱と努力がこの演奏会をより一層熱くしてくれたのだ。ありがとう一回生。

来年もまた皆様に熱き感動を与えられることを祈ります。

(Bari II サイキッカー)

〈全同志社メサイア演奏会〉

わが同志社グリークラブにとって、全同志社メサイア演奏会は、異彩を放っています。なんと、男声合唱団であるはずの我が団が、その日だけは、混声合唱団に化けてしまうのです。そして、我が団と共に、音楽を作りあげていく団は、女声が、同志社女子メサイア研究会と、一般公募の皆さん、管弦楽は同志社交響楽団です。そう、この演奏会は、まさに全同志社をあげて、ヘンデルの傑作《メサイア》を演奏する、大変ゴージャスな一大イベントなのです。

1997年、今年もクリスマスイヴがやってきますね。《メサイア》に興味のある方もない方も、恋人のいる方もいない方も、この日は、ぜひとも京都コンサートホールへ足をお運びください。京都の冬の風物詩ともなっているこの演奏会、来なきや、良い年は、迎えられません。いうなれば、年越しそばみたいなモンです。

(Top II ジャージ男)

〈フェアウェル・コンサート〉

フェアウェルコンサートはグリーライフの年間行事の締めくくりであり、今までクラブと苦楽を共にした四回生にとって最後のステージとなる。就職して会社に出られる先輩ももう少しの間大学に残って勉強を本格的に初める先輩も、この日限りで現役を退くのである。1~3回生による在団生ステージでは、四回生を安心させようと皆一生懸命にうたう。そして、四回生の思い出のステージでは、部外者にはついていけないネタで盛り上がり、四回生は心ゆくまで最後のステージを楽しむ。

しかし、式典では雰囲気は一変する。顧問の先生とOB会理事長から激励のスピーチを頂き、四回生は一人一人退場してゆく。日頃、涙の似合わないグリーメンもこの時は大泣きしてしまうのである。式典での送別の歌は、涙なくしては聴けないであろう。しかし、後で行なわれるパートコンパでは、最後の宴といわんばかりのえげつなさに犠牲者が続出、先程の涙のことなど、心の片隅にもない。

(Bari II N村さん、ビデオ返して下さい)

Video, Recording, Design

私達スタッフは、皆様とのコミュニケーションを大切に実績ある技術で
今宵のコンサートのCD制作を担当しております。

Sound Studio Oka

CD制作
1枚から!

その他、録音、ビデオ撮影 及び
カセットテープ・ビデオテープ・
パンフレット・ポスター製作も承ります。

株式会社 サウンドスタジオOKA
〒606 京都市左京区下鴨半木町70番地
TEL (075) 712-5710 FAX (075) 721-0835

出力サービス
OKA GRAPHIC CENTER
ホームページアドレス:
<http://www.bekkoame.or.jp/~okagc/>

自然を、おいしく、楽しく。KAGOME

よけいな味がしない。 カゴメトマトジュース



1缶に
トマト3個、塩0.8g。
ただ、それだけ。

野菜と暮らそう。KAGOME

浅野忠信

※塩0.8gとは190g1缶に含まれる食塩相当量です。

団員紹介

幹事	長 米山 博哲	会 計	松田 心	名 譽 顧問	遠 藤 彰
副幹事	長 中村 慎吾		都築 洋	顧問	瀧 谷 昭彦
内政	岡田平八郎		嶋田 和晃	ヴォイストレーナー	大久保 昭男
	森 雅章	演 奏 旅 行	阪本 大輔		
外政	吉岡 康典	資 料 担 当	山崎 仁		
	坂本 和之		加藤 一郎		
	岸田 輝哉	O B 担 当	黒瀬 誠		
	藤田 威夫		山口 隆介		
	野中 耕		豊田 明朗		
	大科 優貴		村上 隆明		
	内田 和孝	文化団体連盟運営委員	西岡 淳		
ス テ ー ジ	三由 直樹	全同志社メサイア実行委員	早川 繁彦		
	早川 繁彦		岸田 輝哉		
			松本 祐輔		
			小松原浩司		

TOP TENER

小林 香太 (経 4)
黒瀬 誠 (商 4)
松井 和雄 (経 4)
山崎 仁 (文 4)
早川 繁彦 (法 3)
伊賀上友紀 (文 3)
加藤 一郎 (経 3)
岸田 輝哉 (工 3)
堀江 元治 (法 2)
松本 祐輔 (商 2)
西川 佳安 (法 2)
西岡 淳 (法 2)
阪本 大輔 (商 2)
林 隆宏 (法 1)
岸本 洋介 (商 1)
西田 清和 (法 1)

SECOND TENER

三由 直樹 (商 4)
岡田平八郎 (文 4)
坂本 和之 (経 4)
藤田 威夫 (文 3)
池淵 正樹 (法 3)
加藤 明 (商 2)
小松原浩司 (工 2)
松井 義忠 (工 2)
野中 耕 (経 2)
竹之内達也 (法 2)
小林 拓馬 (文 1)
澤田定一良 (文 1)

BARITONE

松田 心 (文 4)
西田 啓 (商 4)
都築 洋 (商 4)
米山 博哲 (神 4)
森 雅章 (法 3)
村上 隆明 (法 3)
嶋田 和晃 (工 3)
山口 隆介 (文 3)
岸本 周平 (商 2)
五十嵐嘉紀 (商 2)
大科 優貴 (法 2)
大久保 学 (法 2)
内田 和孝 (経 2)
赤澤 昌樹 (法 1)
本田 絢 (商 1)
万尾 亮 (商 1)
野村 弘 (経 1)
矢野 宏彦 (法 1)

BASS

入江 隆生 (経 4)
森田 大介 (商 4)
豊田 明朗 (文 4)
吉岡 康典 (経 4)
石井 隆昭 (経 3)
中村 慎吾 (法 3)
矢倉 聡明 (経 3)
板倉 伸久 (商 2)
弓山 達也 (文 2)
白石 法之 (法 1)

本日はお忙しい中を御来場下さりまして、誠にありがとうございます。
最後になりますが、このパンフレット製作にあたりまして、快く原稿を御
執筆下さいました諸先生方、広告並びに、協賛を頂きました皆様、双林印刷
の迫様、その他この日のために御尽力下さいましたすべての方々、そして
何より本日御来場頂きました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

1997年 師走 同志社グリーンクラブ一同

協賛：大和銀行合唱団

1998 アメリカ演奏旅行

～新たな可能性の探求

演奏日程 Tour Schedule

1998

- 2/16 (Mon) *Kansai Airport → N.Y.*
- 2/20 (Fri) *Concert at Yale (joint)*
- 2/21 (Sat) *Choral Festival*
- 2/22 (Sun) *Concert at Amherst*
- 2/28 (Sat) *Concert at U. C, Davis*
- 3/ 3 (Tue) *Universal Studio Concert*
- 3/ 4 (Wed) *Concert at Pomona*
- 3/ 6 (Fri) *Concert at U. of Hawaii (joint)*
- 3/ 8 (Sun) *Makiki Church*
- 3/10 (Tue) *Honolulu → Japan*

〈連絡先〉〇七七四六三八〇三〇

加藤 一郎

1998年2月13日(金)

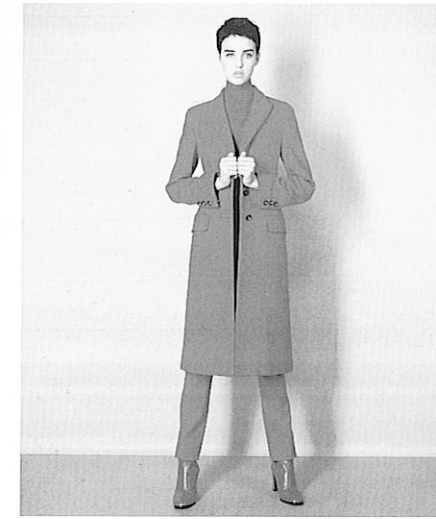


第93回 卒団生のためのフェアウェルコンサート

○同志社大学学生会館ホール
地下鉄今出川駅下車



DOLCE & GABBANA



GENNY



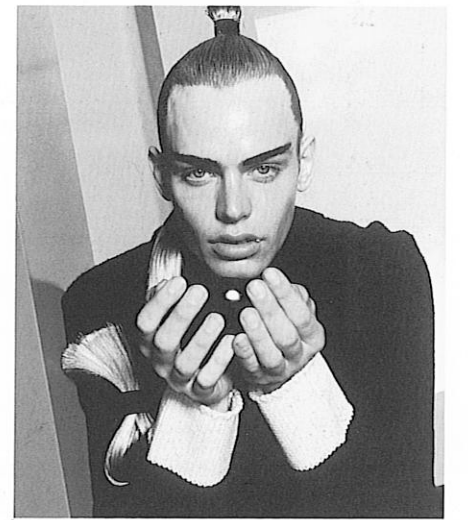
D&G
DOLCE & GABBANA



DOLCE & GABBANA



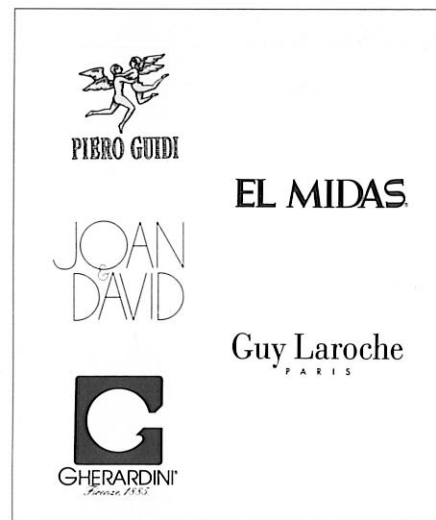
byblos



D&G
DOLCE & GABBANA



malo



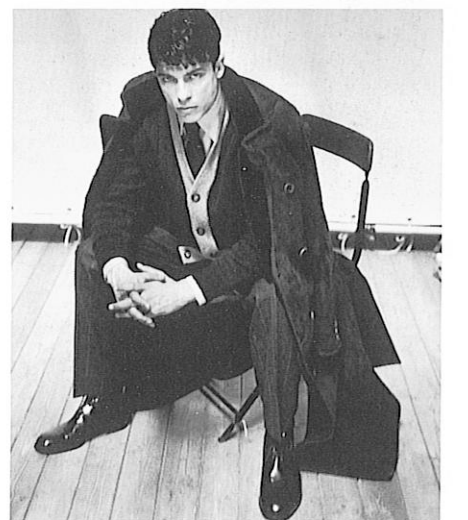
PIBRO GUIDI

JOAN DAVID

GHERARDINI
Fondato 1952

EL MIDAS

Guy Laroche
PARIS



F
FENDI

三崎商事グループ

ジェニージャパン株式会社 ビブロスジャパン株式会社 三崎商事株式会社

代表取締役社長 三崎 政二